2025 年度
体験活動プログラム
活動報告

体験型活動ワーキンググループ

2026 年 3 月 31 日

目次

Ⅰ　体験活動プログラム実施概要.....

Ⅱ　体験活動プログラム活動報告.....

Ⅲ　体験活動プログラム活動報告会.....

Ⅳ　付録

・体験活動プログラム概略.....

Ⅰ　体験活動プログラム実施概要

●概要

学部学生及び大学院学生を対象とし、大学生活とは異なった考え方や発想、行動様式又は価値観と触れ合うための多様な形態と内容のプログラムを提供しています。

平成 24 年度に「体験活動に関するワーキンググループ」を設置し、平成 24 年度には 176 名が活動に参加し、さらに平成 25 年度以降は研究室体験活動プログラムを加え、毎年多くの学生を様々な体験の場に送り出しています。

●2025 年度体験活動プログラム実施データ

＜プログラムの件数および募集人数＞

区分	プログラム提供件数	プログラム実施件数	募集人数
国内プログラム	64 件(63%)	61 件(63%)	406 名(55%)
海外プログラム	31 件(31%)	31 件(32%)	292 名(40%)
研究室プログラム	6 件(6%)	5 件(5%)	36 名(5%)
全プログラム	101 件(100%)	97 件(100%)	734 名(100%)

＜応募、参加状況＞

区分	募集人数	応募者	参加者	不採択者
国内プログラム	406 名	393 名 〈97%〉	288 名 《73%》	105 名 《27%》
海外プログラム	292 名	550 名 〈188%〉	281 名 《51%》	269 名 《49%》
研究室プログラム	36 名	26 名 〈72%〉	16 名 《61%》	10 名 《39%》
全プログラム	734 名	969 名 〈132%〉	585 名 《60%》	384 名 《40%》

〈　〉内は募集人数との比率、《　》内は応募者数との比率

なお、プログラムに応募し、不採択となった者が別のプログラムに応募しているため、応募者数は延べ数を示す。

また、研究室プログラムについては複数の申請が可能となっており、応募者数及び参加者数は延べ数を示し、不採択者数には採択後に参加を辞退した者及び活動中止となったプログラムに参加を予定していた学生の数を含む。

＜採択者の属性＞

◆男女別内訳

	男子学生	女子学生	計
参加者の男女別内訳	310 名 (53%)	275 名 (47%)	585 名 (100%)

◆学年別内訳

○　参加者 585 名のうち、学部前期課程学生は 175 名(30%)、学部後期課程学生は 276 名(47%)、大学院学生 134 名(23%)。

○　参加者 585 名の学年別内訳は、1 年生 54 名(9%)、2 年生 121 名(21%)、3 年生 136 名(23%)、4 年生 135 名(23%)、5 年生 4 名(1%)、6 年生 1 名(0%)、修士 1 年生 26 名(4%)、修士 2 年生 61 名(10%)、博士 1 年生 7 名(1%)、博士 2 年生 5 名(1%)、博士 3 年生 6 名(1%)、専門職学位 1 年生 9 名(2%)、専門職学位 2 年生 6 名(1%)、専門職学位 3 年生 14 名(3%)。

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	男子	女子
法			11	30			41	24	17
医			4	3	4	1	12	4	8
工			45	28			73	38	35
文			14	12			26	13	13
理			9	7			16	11	5
農			15	12			27	12	15
経済			11	27			38	22	16
教養	54	121	16	8			199	108	91
教育			9	4			13	5	8
薬			2	4			6	2	4
計	54	121	136	135	4	1	451	239	212

教養学部欄の「1 年」、「2 年」の欄は、前期課程の学生を示す。

	M1	M2	D1	D2	D3	P1	P2	P3	計	男子	女子
工学系	4	30	1	2	2				39	26	13
人文社会	2	2	1		1				6	2	4
教育学	3			1					4	2	2
法学政治	1				1		1	14	17	9	8
経済学	1								1	1	
総合文化	3	4		1					8	4	4
理学系		4	1						5	4	1
農学生命	6	3	1						10	3	7
医学系	2	1	2		1	3	3		12	2	10
薬学系	2	3							5	2	3
数理科学											
新領域		6			1				7	3	4
情報理工	1	2							3	3	
情報学環	1	6	1	1					9	7	2
公共政策						6	2		8	3	5
計	26	61	7	5	6	9	6	14	134	71	63

◆学部前期課程学生の科類別内訳

	文一	文二	文三	理一	理二	理三	計
1年	9	2	14	11	16	2	54
(国内)	5	2	10	6	14		37
(海外)	4		3	5	1	2	15
(研究室)			1		1		2
2年	25	14	31	22	27	2	121
(国内)	13	5	19	13	12		62
(海外)	12	9	11	8	11	2	53
(研究室)			1	1	4		6
計	34	16	45	33	43	4	175

Ⅱ　体験活動プログラム活動報告

国内ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ名称

		ページ数
A1	病気のお子様のご家族が滞在される施設でのボランティア活動	6
A2	療育を知ろう	6
A3	環境DNAを用いた魚類調査プロジェクト	6
A4	ふじのくにの里山 – 植物と昆虫のつながり	7
A5	能登の里山里海を紡ぐ関係人口創出 ～FSの継続から能登町の復興へ～	7
A6	地域探究プログラム ～地元高校生と能登半島地震からの復興政策・事業を立案せよ～	7
A7	乳幼児（0～2歳）の保育体験	8
A8	高校魅力化プロジェクト～地域における学習支援と課題発見・解決,価値創造～	8
A9	盛岡のインクルーシブ・ツーリズム体験及び提言プログラム	8
A10	長浜曳山まつり　秋の曳山巡行体験事業	9
A11	不登校児童生徒を中心とする子ども向け探究プログラム	9
A13	「還暦以上は口を出さず」東日本大震災からの復興まちづくりに学ぶ	9
A14	東大蔵元会の蔵で酒造りを体験しよう	10
A15	陶板複製名画美術館における学芸員体験	10
A16	農作物なんて自由自在？？～植物工場で次世代の食糧生産を考える～	10
A17	町長の秘書業務体験!～現役首長と向き合う行政の現場～	11
A18	笑う東大×学ぶ吉本SDGs人材交換留学「EXPO 2025 大阪・関西万博」におけるコンテンツ制作体験	11
A19	笑う東大×学ぶ吉本SDGs人材交換留学　漫才ワークショップ	11
A20	再生可能エネルギー系ベンチャー企業でのインターン	12
A21	気候変動に対応するために「ITによる GX」を考えてみよう	12
A22	工学系日本語教育コースでのボランティア	12
A23	クリケット体験プログラム	13
A24	JICAの国内の現場で国際協力を知る	13
A25	岩手県花巻市 Ohはさま！真夏のぶどう合宿 2025夏	13
A26	ラムサール条約湿地「宍道湖」・「中海」で水環境と生態系保全を考える	14
A27	どっぷりディープな農業・農村体験（DDNN）	14
A28	山形県加茂湊の歴史・文化・自然に学ぶ帰ってきたくなる優しい港町、加茂湊― 夢を紡いだ北前船船主集落の輝きを味わう	14
A29	淡路島を舞台とした地域価値向上のための企画コンサルティング活動	15
A30	紀州アメリカ村で、地域の過去と未来を考える	15
A31	駒場IIキャンパス学食を通じた生産現場を学ぶワークショップ	15
A32	福島市内唯一のワイナリーでワイン用ぶどうの収穫・醸造体験！！	16
A33	みちのく潮風トレイルを通した持続的な地域振興 ～トレイル＆トレイン～	16
A34	「東京飽きたへん？鳥取来てごしないや」～鳥取県米子・大山で考える地方の魅力と課題～	16
A35	真冬の雪中に桜が咲く郷＜山形県西川町＞啓翁桜とかくれ積雪日本一の地域体験	17
A36	競走馬のふるさと日高～牧場から学ぶ軽種馬(サラブレッド)産業の今と未来～	17
A37	伝統工芸木炭生産技術保存会とともに出雲國でたたら製鉄	17
A38	伝統工芸木炭生産技術保存会とともに伝統工芸に必要な駿河炭を焼く	18
A39	伊豆の体験活動　－南伊豆という一地域との連携に学ぶ－	18
A40	海の恵みを体感！長崎水産業の未来を考える旅	18
A41	中山間地域を見る・感じる・考える～北海道鷹栖町で、今後の中山間地域・地方創生について考えよう	19
A42	持続可能なライフスタイルへの変遷を実現するための科学的アプローチに基づくフィールド実践体験	19
A43	東大の牧場に行って山羊、豚、牛、馬の世話とトラクターを体験しよう	19
A44	暮らしの中で環境に配慮した物質の循環を考える	20
A45	北海道の遺跡博物館における学芸員体験と冬のオホーツク文化体験	20
A46	森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験～世界の水文研究を支える超長期観測やバイオマスバリューチェーンの実装～	20
A47	森の人になろう – 森と暮らす仕事	21
A48	中世の時代が輝く島根県益田市歴史観光プログラム企画開発プロジェクト	21
A49	森が社会に貢献する－持続可能な森づくりへの挑戦－	21
A50	保育園や幼稚園、自治体の子育て支援の取り組みについて知ろう	22
A51	空飛ぶクルマとリニア中央新幹線を巡る探求の旅～未来の移動と日本社会を考える～	22
A52	帰還困難区域の「街づくり」を考える。ー「復興」の現場に生きる人々の想いとともに ー	22
A53	聖地熊野の歴史文化と自然を体験し、地域振興を考える	23
A54	日本の伝統文化である花火について学び、花火をデザインする	23
A55	現地で学ぶ石垣島プロジェクト	23
A56	東日本大震災からの学びを通して、自分の生き方・在り方・未来を見つめる旅	24
A58	日本の伝統文化である花火について深く学び、花火の魅力を感じ、「花火鑑賞士」を目指す！	24
A59	離島で教育活動をしよう～奄美群島 瀬戸内町でのキャリア支援～	24
A60	「坂のまち長崎」で学び、暮らす。	25
A61	観光地西表島の自然の魅力を存分に堪能し、存分に環境保全の意義について考える	25
A63	未来を指向する地方自治体の活動への参加	25
A64	野宿学（雪国編）「雪国でイグルーを自作して一晩過ごしてみよう」	26

海外プログラム名称

		ページ数
B1	オーストラリア最高峰のリハビリ医療(脳挫傷・脊椎損傷)見学・体験	27
B2	サウジアラビア　プリンセスヌーラ大学　国際交流体験活動	27
B3	インドを深く学ぶ旅ー日印学生交流を中心として	27
B4	台湾大学実験林での体験活動～亜熱帯の森林と林業を学ぶ～	28
B5	ベトナムを知れば、日本の将来が見えてくる！ ～ベトナムの学生・企業等との交流～	28
B6	芸術の都フィレンツェで文化財保護を学ぶ	28
B7	モルディブは万華鏡: 環礁国で学ぶ気候変動・観光開発・国際関係・イスラム文化	29
B8	台湾を知る、台湾近代史へのご招待	29
B9	シンガポールでビジネスを学んでみよう	29
B10	英国ロンドン、海外で働くとは	30
B11	ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション	30
B12	VE_italia ・Veneto Experience プログラム	30
B13	インド工科大学マドラス校での学生交流と文化体験活動	31
B14	サウジアラビア　キングサウード大学　国際交流体験活動	31
B15	アラブ首長国連邦の「いま」	31
B16	スウェーデン王立工科大学（KTH)での国際交流体験活動-学生交流と企業訪問を通して-	32
B17	タイ伝統医療とヘルスプロモーション政策：グローバル化の未来を考える	32
B18	Tokyo Oxford Programme of Summer (TOPS 2025)	32
B19	Cambridge大学での国際交流体験活動	33
B20	中国訪問 + キャンパスツアーと学生交流	33
B21	ケニアスタディーツアー ～リアルなアフリカへの第一歩～	33
B22	世界を拓く知の冒険――清華大学×東京大学 国際交流プログラム	34
B23	熱帯林の保全と修復の現場で語り合う	34
B24	シリコンバレーハイテク企業社員の生の声を聞く国際交流体験	34
B25	ニューヨークで働くということ	35
B26	アメリカで仕事をすることの素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう	35
B27	シドニーとメルボルンでビジネスを学んでみよう	35
B28	『日韓国交正常化60周年記念プログラム<メディアと韓国社会>～日韓における共通課題を実践的に考える～』	36
B29	スイスの国際機関・研究機関・企業などを訪問する	36
B30	フィリピンで国際協力を考える～新興国におけるビジネス・政策の現場を訪ねる	36
B31	スタンフォードとシリコンバレー体験プログラム	37

研究室プログラム名称

		ページ数
C1	複雑なシステムのデザイン演習：カーボンニュートラル国際海運システム	38
C2	DO-IT Japan (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology Japan)2025・夏季プログラムへの参加	38
C3	先端的蛍光イメージング技術を用いた脳科学・神経科学研究体験	39
C4	脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い	39
C5	いちばん近い演習林で樹木調査を体験しよう2025	39

【国内プログラム】

A1. 病気のお子様のご家族が滞在される施設でのボランティア活動


東大ハウス

ドナルド・マクドナルド・ハウスでのボランティア活動を通じて、病気の子どもだけでなく、その家族の生活や心情にも目を向ける大切さを学んだ。月 1 回の清掃活動や募金活動を通して、利用者の日常を支える環境づくりや、社会全体で支援の輪を広げる意義を実感した。また、継続的な活動を通じて、目立たない仕事も誰かの生活を支えていることに気づき、ボランティアに対する考え方も変化した。今後は、患者や家族を生活者として捉える視点を大切にし、医学・薬学などそれぞれの専門分野で学びを深めながら、社会との関わりを意識した支援について考えていきたい。

日　　程：2025/7/1(火)－2026/1/31(土)
参加学生：5 名
活動場所：東京大学病院隣接の東大ハウス
備　　考：
公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン：https://www.dmhcj.or.jp/

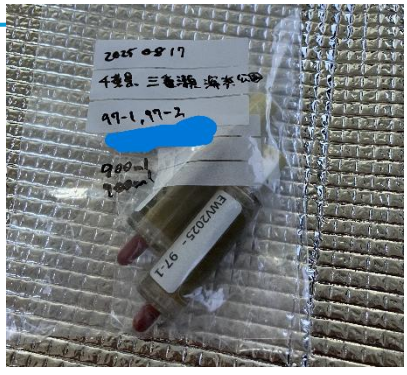
A2. 療育を知ろう


島田療育センターはちおうじ

診療科での診察や、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士によるリハビリ、重症心身障害のある方々の通所の様子を見学し、利用者やご家族とも交流した。活動を通して、一人ひとりの生活を支えるため、医師や療法士、看護師、保育士などがそれぞれの専門性を生かして連携していることを学んだ。また、言葉や身体による意思表示が難しい方との関わりから、相手の立場に立って考えることの大切さを実感した。障害の有無にかかわらず、誰もが自分らしく生きられる環境の重要性を学び、環境づくりを支える側になりたいという思いが強くなった。今後は、さまざまな人との関わりを大切にし、相手にとってより良い支援を自ら考え、行動していきたい。

日　　程：2025/8/15(金)－8/25(月)
参加学生：1 名
活動場所：島田療育センターはちおうじ(東京都八王子市)
備　　考：島田療育センターはちおうじ：https://www.shimada-ryoiku.or.jp/shima8/

A3. 環境 DNA を用いた魚類調査プロジェクト


採取した海水サンプル

千葉県船橋市の三番瀬海浜公園で、環境 DNA を用いた魚類調査を体験した。海水を採取し、シリンジでろ過して環境 DNA のサンプルを 2 つ作成・郵送するとともに、位置情報や海の状況を記録した。魚を直接捕まえることなく調査できることに驚き、環境 DNA という手法を実際のフィールドで学ぶことができた。初めてのフィールドワークを通して、研究室とは異なる研究の面白さも感じた。

日　　程：2025/8/17(日)
参加学生：1 名
活動場所：千葉県船橋市 ふなばし三番瀬海浜公園

A4. ふじのくにの里山 － 植物と昆虫のつながり－

静岡県のふじのくに地球環境史ミュージアムで、日中は虫網、夜間はライトトラップを用いた昆虫採集を行った。採集した昆虫は標本にし、図鑑や双眼実体顕微鏡を用いて観察し、種類を特定した。研究者とともに多くのサンプルを調査し、地域にどのような昆虫が生息しているのかを記録した。近接した地域でも独自の種分化や昆虫相が見られることを知り、静岡の地域性や生物多様性について理解を深めた。また、昆虫の細かな形態を観察することで、生物そのものを研究する魅力を感じた。

日　　程：2025/9/20(土)－9/21(日)

参加学生：1 名

活動場所：静岡県静岡市

備　　考：認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパン：https://www.earthwatch.jp/

A5. 能登の里山里海を紡ぐ関係人口創出 ～FS の継続から能登町の復興へ～

能登で暮らす方々や地域に関わるさまざまな人々を訪ね、酪農、水産業、地場産業、教育、スタートアップなど、それぞれの立場から能登の現状やこれからについて話を伺った。競りやキリコ祭りの見学などを通して、被災地としてだけではない、自然や文化、産業に支えられた能登の姿を知ることができた。また、移住者や地域おこし協力隊など、外から能登に関わる人々との交流を通じ、地域への関わり方の多様さも学んだ。人口減少などの課題を抱える一方で、地域の未来に向けて挑戦する方々の姿に刺激を受け、自分にできることを考える機会となった。



キリコ祭りを見学



地域の方々との交流

日　　程：2025/9/13(土)－9/15(月)

参加学生：5 名

活動場所：石川県能登町

備　　考：Instagram：https://www.instagram.com/noto_choice_2022/

A6. 地域探究プログラム ～地元高校生と能登半島地震からの復興政策・事業を立案せよ～

石川県七尾市で、地元高校生とともに能登半島地震からの復興に向けた政策立案に取り組んだ。高校生との議論を重ね、地域課題の発見から解決策の立案・評価までを行い、最終的には成果を地域の方々や関係者の前で発表した。また、子ども食堂や中学生向けの学習企画にも参加し、地域の子どもたちと交流した。活動を通して、対話や議論では相手の意見を引き出しながら進めることが重要であると学ぶとともに、地域課題や政策について自ら学び、考える必要性を実感した。異なる背景を持つ高校生や大学生、地域の方々と協働し、一つの成果を形にする貴重な経験となった。



中学生との交流・学習活動

日　　程：2025/8/17(日)－8/23(土)

参加学生：7 名

活動場所：石川県七尾市

備　　考：UTVC 東京大学復興ボランティア会議：
https://www.canva.com/design/DAGbJVlXbZ4/eAbDkSRxnEYLTIWR99QpHQ/edit

A7. 乳幼児（0〜2 歳）の保育体験

0〜2 歳児クラスで保育補助として活動し、子どもたちと一緒に遊んだり、絵本の読み聞かせをしたり、食事の補助、着替え、寝かしつけ、お散歩の付き添いなどを行った。また、英語や体育のレッスン、季節のイベントにも参加し、子どもたちの様子を見ながら必要なサポートを行った。活動を通して、同じ乳幼児でも年齢によって発達や興味、コミュニケーションの方法が大きく異なることを実感した。保育士の方々が子どもの小さな変化を捉え、一人ひとりに合わせて関わる姿から、日々の細やかな声かけや配慮が子どもの成長を支えていることを学んだ。実際の保育現場に身を置くことで、保育の楽しさと責任の重さを知ることができた。

日　　程：2025/7 月－2026/1 月(計 6 回程度)
参加学生：5 名
活動場所：ポピンズナーサリースクール東大本郷さくら
備　　考：株式会社ポピンズ：https://www.poppins.co.jp/educare/

A8. 高校魅力化プロジェクト〜地域における学習支援と課題発見・解決,価値創造〜

公営塾や学習センターで高校生と交流し、話やスポーツなどを通じて関係を築きながら、英語・数学の学習支援や学校行事への参加にも取り組んだ。活動を通じて、勉強だけでなく、地域や人との関わりが高校生の成長に大きな意味を持つことを学んだ。また、地域に関わる方々との交流を通じて、地域に支えられる温かさも実感した。普段とは異なる環境で生活することで、自分の常識を相対化し、新たな価値観に触れることができた。今後は、地域や文化を実際に体験する姿勢を学業に生かすとともに、教育やフィールドワークへの関心を深め、新しいことにも積極的に挑戦していきたい。


高校生と交流する様子

日　　程：2025/8 月－9 月
参加学生：2 名
活動場所：島根県海士町、北海道厚真町
備　　考：株式会社 Prima Pinguino：https://pripin.co.jp/
　　高校魅力化プロジェクト：https://miryokuka.com/

A9. 盛岡のインクルーシブ・ツーリズム体験及び提言プログラム

盛岡の市街地を実際に歩き、観光地だけでなく路地や地元の商店などを巡りながら、地域の方や観光客へのヒアリングを行った。また、目隠しや車いすを利用したハンディキャップ体験、自転車での市街地探索などを通して、さまざまな視点から盛岡の観光について考えた。最終日には、市役所の方々に向けて観光の課題や魅力を踏まえた提言を行った。活動を通じて、普段とは異なる視点から地域を見ることで新たな魅力を発見するとともに、観光では有名な場所だけでなく、地域の人との交流やそこで得られる体験が重要であることを学んだ。


目隠しで市街地を体験

日　　程：2025/9/7(日)－9/10(水)
参加学生：5 名
活動場所：岩手県盛岡市

A10. 長浜曳山まつり　秋の曳山巡行体験事業

曳山博物館での展示替えや搬出準備、実際の曳山巡行、地域の方々との交流会、蒔絵体験などを通じ、長浜の伝統文化を支える人々の活動を体験した。特に曳山を実際に曳く中で、地域の方々と力を合わせる一体感を味わい、祭りが地域の強い結びつきによって成り立っていることを実感した。また、継承者不足や材料費の高騰など、伝統文化が抱える課題についても知った。文化は建物や道具を保存するだけでなく、それを大切に思い、受け継ごうとする人々の思いによって続いていくことを学んだ。今後は、地域の伝統文化に積極的に触れ、その背景や課題を知るとともに、人々の思いを大切にしながら、学業や将来の活動に生かしていきたい。

日　　程：2025/10/10(金)－10/12(日)
参加学生：4 名
活動場所：滋賀県長浜市
備　　考：公益財団法人長浜曳山文化協会：https://nagahama-hikiyama.or.jp/


曳山巡行へ出発


蒔絵体験

A11. 不登校児童生徒を中心とする子ども向け探究プログラム

鎌倉 ULTRA プログラムに学生サポーターとして参加し、不登校の子どもたちが安心して活動できるよう、プログラムの理解や交流を支援するとともに、会場設営などを行った。子どもたちと継続的に関わる中で、相手の目線に立ち、焦らず受け止めることの大切さを学んだ。また、一人ひとりの個性や興味が尊重され、ありのままの自分でいられる環境が、子どもたちの安心や主体性につながることを実感した。一方で、教育には個性を認めることと、社会で生きる力を育むことの両立が必要だとも感じた。今後は、子どもを一括りにせず、一人ひとりの変化や声に目を向けながら、教育や子どもの権利について考え、将来の進路にも生かしていきたい。

日　　程：2025/9/13(日)－9/14(月)、10/25(日)－10/26(月)
参加学生：3 名
活動場所：神奈川県鎌倉市等
備　　考：株式会社 SPACE：https://space-inc.jp/

A13. 「還暦以上は口を出さず」東日本大震災からの復興まちづくりに学ぶ

宮城県女川町を訪れ、「還暦以上は口を出さず」を合言葉に進められた若者中心の復興まちづくりについて学んだ。まち歩きや役場・小中学校の見学に加え、子ども向けスポーツ事業、トリガイ養殖、水産・林業などの現場を訪問し、地域おこし協力隊や起業家、町民の方々と交流した。また、出島でのトレッキングや地域のまちづくりアイデア会議にも参加した。さまざまな現場で話を聞く中で、震災後のまちづくりの背景や、若者や移住者を積極的に受け入れる女川の風土を知ることができた。地域で新たな仕事や活動を生み出す人々の姿に触れ、女川の復興と現在の活気がどのようにつくられてきたのかを実感した。

日　　程：2025/9/8(月)－9/12(金)
参加学生：6 名
活動場所：宮城県牡鹿郡女川町
備　　考：特定非営利活動法人アスヘノキボウ：https://asuenokibou.jp/




女川町の自然とまちの風景

A14. 東大蔵元会の蔵で酒造りを体験しよう

実際に酒蔵で作業を体験することで、日本酒が多くの工程と蔵人の方々の細やかな仕事によって生み出されていることを実感した。麹づくりや櫂入れなどの作業だけでなく、道具の準備や清掃など、表には見えにくい仕事まで体験できたことが印象に残っている。また、蔵人の方々から、酒造りに対する思いや長年培われてきた技術について直接話を伺うことができた。伝統的な製法を大切にしながら、海外展開やブランディング、新たな商品開発にも挑戦している姿を知り、日本酒業界の奥深さと今後の可能性を感じることができた。

日　　程：2025/8 月－2026/3 月(蔵により異なる)

参加学生：11 名

活動場所：岩手県、福島県、奈良県、栃木県





酒造りの工程を体験

A15. 陶板複製名画美術館における学芸員体験

大塚国際美術館で学芸員研修に参加し、館内見学や美術館運営についての説明を受けたほか、ミュージアムショップでの接客、学芸広報部との意見交換、アートコスプレの企画提案など、スタッフ側の業務を体験した。最終日には、一般来館者約 100 人を前に 20 分間の館内ガイドを行い、大きな達成感を得た。活動を通して、美術館の運営や西洋美術への理解が深まるとともに、わかりやすく伝えることの難しさと重要性を学んだ。今後は、人前で話す際の緊張とうまく向き合い、相手に応じて複雑な内容をわかりやすく伝える力を、学業や将来の進路に生かしていきたい。

日　　程：2025/8/22(金)－8/25(日)

参加学生：4 名

活動場所：大塚国際美術館(徳島県鳴門市)

備　　考：大塚国際美術館：https://o-museum.or.jp/



学芸員体験



画家に扮して絵画を紹介

A16. 農作物なんて自由自在？？～植物工場で次世代の食糧生産を考える～

植物工場について、農学・工学・ビジネスの視点から学んだ。東京大学生態調和農学機構では、基礎や最新の研究、事業展開について講義を受け、簡易植物工場を見学した。プランテックス社では、完全閉鎖型の植物工場を見学し、ルッコラの収穫や社員との交流を通して研究開発について理解を深めた。最終日には「プランテックス社で米を生産する」というテーマでプレゼンを行い、植物工場の可能性と課題について考えた。

日　　程：2025/9/10(水)、9/11(木)、9/16(火)

参加学生：5 名

活動場所：東京大学生態調和農学機構（附属田無演習林)、株式会社プランテックス

備考：生態調和農学機構河鰭研究室：http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/kawabata-lab/



プランテックスの栽培棚

A17. 町長の秘書業務体験!～現役首長と向き合う行政の現場～



旧鎌掛小学校の校舎

滋賀県日野町で町長の公務に同行し、地方自治体の行政やまちづくりについて学んだ。町長や役場職員の会議、町議会を傍聴し、普段は見ることのできない行政の意思決定の過程を知った。また、学童やこども園、公民館などの地域施設や、町営バス・オンデマンド交通「ちょいそこひの」を見学し、地域課題に向き合う行政の取組を学んだ。民泊では、町議会議員と意見交換を行い、観光や子どもの教育、公共交通などについて考えた。最終日には日野町の課題や今後の政策について発表し、地域の実情を踏まえてまちづくりを考える経験となった。

日　　程：2025/8/31(日)－9/4 日(木)

参加学生：4 名

活動場所：滋賀県蒲生郡日野町

備　　考：

日野町役場：https://www.town.shiga-hino.lg.jp/

東京大学三四郎会：https://www.facebook.com/todaisanshiro



近江鉄道に乗って地域を移動

A18. 笑う東大×学ぶ吉本 SDGｓ人材交換留学「EXPO 2025 大阪・関西万博」におけるコンテンツ制作体験

大阪・関西万博の吉本パビリオンで、SDGs をテーマとしたゲームコンテンツの企画・制作に取り組んだ。SDGs17 の目標から 2 つを担当し、メッセージ性とゲームとしての面白さを両立させるため、ゲーム制作会社の方々と意見交換を重ねながら内容を改善した。万博ではステージに登壇し、来場者にゲームを紹介し、実際にプレイしてもらった。自分のアイデアが形となり、来場者の反応を直接見ることで、まず試してみることや、利用される場面まで考えて企画することの重要性を学んだ。また、プロの方々と協働した経験も大きな刺激となった。今後も、相手のニーズを意識し、アイデアを形にする力を活かしていきたい。

日　　程：2025/7 月-9 月の計 3 回の打ち合わせおよび大阪・関西万博への参加

参加学生：8 名

活動場所：吉本興業東京本部、大阪・関西万博





万博でゲーム体験

A19. 笑う東大×学ぶ吉本 SDGｓ人材交換留学　漫才ワークショップ

NON STYLE の石田明さんから漫才について学び、NSC（吉本総合芸能学院）の学生とコンビを組んでネタを制作・発表した。自分はボケを担当し、アイデアを出しながら相手と協力してネタを完成させた。舞台に立ち、観客の反応を直接受けることで、普段の生活では味わえない緊張感と達成感を得た。また、面白さは一度で完成するものではなく、反応をもとに改善を重ねることで生まれることを学んだ。NSC の学生との交流を通して、自分とは異なる価値観や生き方に触れたことも大きな刺激となった。この経験を生かし、相手の立場を意識したコミュニケーションを心がけ、さまざまな視点から物事を考えていきたい。

日　　程：2025/8/26(火)

参加学生：6 名

活動場所：吉本興業東京本部



NON STYLE 石田さんの講義

A20. 再生可能エネルギー系ベンチャー企業でのインターン



新規事業について説明を受ける



サステナジーの皆さんと

サステナジー株式会社で、新規事業として検討されていた DAC（直接空気回収技術）について調査した。学生同士で担当する企業や領域を分担し、生成 AI などを活用して、DAC の技術や国内外の事例について情報を収集した。担当領域では、DAC の技術的特徴や CO2 の回収量・必要な熱量を調べるとともに、ケニアの地理的・経済的条件を踏まえた導入可能性を検討した。既存の太陽光発電との組み合わせや、回収した CO2 の利用方法について考察し、具体的な事業案としてまとめ、成果を発表した。新たな技術を事業として実現するための課題を多角的に検討する経験となった。

日　　程：2025/9/1(月)－9/12(金)
参加学生：3 名
活動場所：東京都港区虎ノ門・オンライン
備　　考：サステナジー株式会社：https://sustainergy.co.jp/

A21. 気候変動に対応するために「IT による GX」 を考えてみよう



マイクロソフトオフィスにて

日本マイクロソフト本社を訪問し、同社の事業や GX への取組、プログラムについてのオリエンテーションを受けるとともに、オフィスツアーにも参加した。その後、コンサルティングにおける問題解決思考法について講義を受け、サステナビリティに関する課題を自ら設定し、目的を明確にした上で構造化して分析するワークショップに取り組んだ。グループで意見交換を行い、それぞれの視点から課題と解決策を考え、発表した。GX と IT の関係や AI の活用について学ぶとともに、複雑な課題を整理して解決策を考える実践的な力を身につけた。

日　　程：2025/8/1(金)、8/12(火)－8/13(水)
参加学生：4 名
活動場所：日本マイクロソフト株式会社品川オフィスおよびオンライン

A22. 工学系日本語教育コースでのボランティア



折り紙で日本文化を紹介

工学系日本語教育コースの授業にボランティアとして参加し、留学生との会話練習や発表、グループワークを支援したほか、日本文化の紹介や就職活動に関する相談にも応じた。活動を通して、普段何気なく使っている日本語の表現や敬語の難しさに気づくとともに、さまざまな国の文化や生活、就職事情について知ることができた。留学生との交流を通じて自分とは異なる価値観に触れ、視野を広げるとともに、人を支えることのやりがいも感じた。今後も学内外で多様な背景を持つ人々との交流を大切にし、学びを深めていきたい。

日　　程：2025 年度 A1A2 学期
参加学生：7 名
活動場所：本郷キャンパス工学部 8 号館
備考：
学生授業ボランティア：https://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/activities/volunteer/
工学系研究科 国際工学教育推進機構 国際教育部門 日本語教育コース：https://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/

A23. クリケット体験プログラム

クリケット体験会に参加し、ルールの説明を受けた後、簡易的なフィールドや道具を使ってゲームを体験した。野球との比較を通じて、普段当たり前だと思っている競技や文化も、視点が変われば異なるものとして捉えられることを学んだ。競技を体験することでクリケットへの理解が深まり、未知のスポーツに触れる楽しさを実感した。また、年齢を問わず楽しめる生涯スポーツとしての魅力にも気づいた。今後は、未知の分野にも積極的に関心を持ち、新たな視点を取り入れながら視野を広げていきたい。

日　　程：2025/9 月－12 月上旬

参加学生：1 名

活動場所：埼玉県さいたま市(大宮)及び東京都内





クリケットの会場と用具

A24. JICA の国内の現場で国際協力を知る

JICA 東京でのインターンシップを通じ、日本の ODA や JICA の役割、国際協力の仕組みについて幅広く学んだ。初日は施設見学や事業説明を受け、市民参加協力事業や研修事業への理解を深めた。活動期間中は、教師海外研修や自治体向け研修、海外事務所とのオンライン座談会など、さまざまな研修を見学した。また、JICA 職員や研修員へのインタビューを通して、国際協力の現場で働く方々の経験や考えを直接伺った。最終日には広報記事の作成と報告会での発表を行い、国際協力の意義や多様な関わり方について考える機会となった。

日　　程：2025/8/21(木)－8/26(火)　※8/23（土）を除く 5 日間

参加学生：2 名

活動場所：JICA 東京(東京都渋谷区西原)

備考：JICA 東京：https://www.jica.go.jp/tokyo/

JUCA インターンシップ・プログラム：

https://www.jica.go.jp/recruit/intern/index.html



JICA 東京の食堂で食事



インターンシップ参加学生

A25. 岩手県花巻市 Oh はさま！真夏のぶどう合宿 2025 夏

岩手県花巻市大迫で、地域の方々と交流しながら、ブドウ・ワイン産業について現地で学んだ。大迫総合支所で地域の方々と挨拶をした後、葡萄が丘農業研究所で地域の土地や水質、ブドウ産業の現状について話を伺った。ワイン用ブドウの収穫や試食、ワインの試飲を行い、品種による香りや味の違いを体験した。農園では、キャンベル、ナイアガラ、ポートランドなどのワイン用・生食用ブドウの収穫と選果にも取り組み、栽培から出荷までの工程を体験した。地域に根ざしたブドウ・ワイン産業に実際に触れることで、その魅力だけでなく、農業が抱える課題や生産者の仕事に込められた手間と工夫を実感した。

日　　程：2025/9/4(木)－9/7(日)

参加学生：2 名

活動場所：岩手県花巻市大迫





ブドウの収穫を体験

A26. ラムサール条約湿地「宍道湖」・「中海」で水環境と生態系保全を考える

宍道湖・中海を中心に、シジミ漁やサルボウガイの養殖、エビ採り、水質調査などを体験し、漁師や地域の方々への聞き取り調査、博物館や水鳥公園の見学を行った。活動を通じて、自然環境と地域の産業・暮らしが密接に結びついていることを学んだ。特に、溶存酸素濃度の測定が養殖に活用されていることや、たたら製鉄が水環境や漁業に影響を与えてきたことを知り、地域の産業と自然環境が相互に関係していることへの理解が深まった。今後の研究や課題解決においても、多角的な視点を持ち、異なる立場の人々と協力していきたい。

日　　程：2025/8/19(火)－8/23(土)
参加学生：3名
活動場所：島根県 中海・宍道湖・大山圏域
備　　考：宍道湖漁業協同組合：https://shinjiko.jp/
宍道湖グリーンパーク：https://www.green-f.or.jp/gp/index.html
中海・宍道湖・大山圏域市長会：https://www.nakaumi.jp/


シジミ漁体験


エビ採り体験

A27. どっぷりディープな農業・農村体験（DDNN）

青森県深浦町で、農業体験や地域交流を通して、地域の暮らしや文化について学んだ。興農組合の方々の指導のもと、大根の収穫から土落とし、出荷準備までを体験したほか、りんご農園では葉摘みや収穫、りんご飴作りなどに取り組み、農作物の生産から出荷までの過程を学んだ。また、山菜採りや神社参拝、白神岳への登山を通して、地域の豊かな自然や文化に触れた。町長との意見交換や地域の方々との交流では、農業に加え、地域全体の魅力や課題について考える機会を得た。これらの体験を通じて、地域の産業や暮らしを理解するには、実際に現地を訪れ、人々と交流することが重要だと実感した。

日　　程：2025/8/25(月)－9/2(火)
参加学生：4名
活動場所：青森県西津軽郡深浦町
備　　考：舳作興農組合：http://www.henashi.jp/
深浦町役場：https://www.town.fukaura.lg.jp/




収穫した野菜を手にみんなで

A28. 山形県加茂湊の歴史・文化・自然に学ぶ帰ってきたくなる優しい港町、加茂湊― 夢を紡いだ北前船船主集落の輝きを味わう

山形県鶴岡市加茂地区を訪れ、北前船に関する街歩きや善寶寺での修行体験、加茂水族館の見学、SUP・カヌーなどを通して、地域の歴史・文化・自然・暮らしについて学んだ。地域住民や市関係者との交流では、高齢化や人口減少、地域活性化の課題について話を伺い、最終日には加茂の魅力やその発信・継承について提案した。特に、地域住民同士のつながりや自治活動が地域を支えるうえで重要であることを学んだ。今後は郷土史や地方創生への関心を深め、地域との継続的な関わりを大切にしたい。

日　　程：2025/8/25(月)－8/29(金)
参加学生：5名
活動場所：山形県鶴岡市、加茂湊周辺と善宝寺


牡蠣の殻むきに挑戦


善寶寺へ

A29. 淡路島を舞台とした地域価値向上のための企画コンサルティング活動

南あわじ市を訪れ、農業・漁業などの地場産業や観光、文化、自然について、地域の方々や行政関係者から話を伺い、地域の魅力や課題を学んだ。特に、第一次産業の担い手不足に着目し、移住促進や関係人口の創出を通じた人材確保策を考え、最終日には地域の方々に提案した。活動を通じて、地域の実情を理解するには、資料だけでなく現地で直接話を聞き、一次情報を得ることが重要だと実感した。また、地域の方々が地方創生に取り組む姿勢にも触れた。課題の発見から解決策の立案、発表までを経験し、今後の学業や仕事にも生かせる実践的な力を養った。



淡路島の名物『おっ玉ねぎ』

日　　程：2025/8/4(月)－8/8(金)
参加学生：4 名
活動場所：兵庫県南あわじ市（淡路島）
備　　考：全国渡り鳥生活倶楽部株式会社：https://www.wataridori-life.com/

A30. 紀州アメリカ村で、地域の過去と未来を考える

和歌山県美浜町三尾地区を訪れ、地域の歴史や文化、景観、移住について学んだ。カナダミュージアムでは、カナダへ渡った住民の資料を通じて、日系移民の歴史と地域とのつながりを知った。まち歩きでは、「美の基準」を参考に地域の魅力的な景観を探し、撮影した写真を発表した。また、地域の方々と伝統的な「イチネン茶」を収穫から製茶まで一緒に行い、交流を深めた。移住者へのインタビューでは、移住の経緯や地域での暮らしについて話を伺った。これらの活動を通じて、地域固有の歴史や文化を生かしたまちづくりと、地域住民との交流の重要性を学んだ。



「イチネン茶」作り



三尾地区のまち歩き

日　　程：2025/9/22(月)－9/24(水)
参加学生：9 名
活動場所：和歌山県日高郡美浜町三尾地区
備　　考：NPO 法人日ノ岬アメリカ村：http://americamura.wakayama.jp/

A31. 駒場 II キャンパス学食を通じた生産現場を学ぶワークショップ

京都府伊根町で、観光や農業、漁業について学ぶフィールドワークを行った。地域の方々への聞き取りに加え、ブドウの収穫などの農作業や釣りを実際に体験し、地域の産業や暮らしについて理解を深めた。特に、酒蔵や漁業者、農家などさまざまな立場の方と交流し、それぞれの地域への関わり方や仕事に対する思いを知った。フィールドワーク後は、駒場Ⅱキャンパスの「食堂コマニ」で、伊根町での経験を生かした展示やゲーム、飲料販売を駒場祭で行い、来場者に食や生産現場について伝えた。現地での体験と発信の両面から、食と地域のつながりを考える機会となった。



ブドウの収穫体験

日　　程：2025 年 7 月～2026 年 2 月（フィールドワーク、駒場祭、その他ミーティング）
参加学生：3 名
活動場所：京都府与謝郡伊根町、東京大学駒場キャンパス
備　　考：食堂コマニ：https://shokudo-komani.com/

A32. 福島市内唯一のワイナリーでワイン用ぶどうの収穫・醸造体験！！





ワイン用ブドウの収穫・仕込み作業

福島市を訪問し、福島市長から市の現状や政策、地域への思いについて話を聞くとともに、吾妻山麓醸造所でワイン用ブドウの収穫とワインの醸造を体験した。ワイナリーでは、作業前に詳しい説明を受け、他のボランティアやスタッフの方々とともに収穫や仕込みの作業に取り組んだ。また、福島市内の「ふく酒街道」を巡り、ワイン、ビール、日本酒、どぶろくなどの醸造所を見学し、それぞれの作り手から製造方法やこだわり、地域への思いを聞いた。実際に酒造りの現場に携わることで、醸造の工程や生産者の思いに触れ、酒造りと地域とのつながりを実感した。

日　　程：2025/9/19(金)－9/22(月)

参加学生：3名

活動場所：福島県福島市

備　　考：

吾妻山麓醸造所：https://azumasanroku-winery.co.jp/

福島市役所：https://www.city.fukushima.fukushima.jp/index.html

A33. みちのく潮風トレイルを通した持続的な地域振興 ～トレイル＆トレイン～



「鵜の巣断崖」の海沿いルート

岩手県三陸地域を訪問し、東日本大震災津波伝承館や宮古観光文化交流協会で、震災の被害や復興の歩みについて学んだ。三陸鉄道本社や自治体、海洋研究所などを訪問し、地域の復興や持続的な地域振興について話を聞いた。また、みちのく潮風トレイルを歩き、三陸鉄道を利用しながら地域を巡るとともに、鮭を捌く体験やさっぱ船などにも参加した。地域の方々との交流を重ね、震災からの復興だけでなく、豊かな自然や文化、交通を生かした三陸のこれからについて考える機会となった。

日　　程：2025/8/19(火)－8/22(金)

参加学生：3名

活動場所：岩手県三陸沿岸地域（宮古市・大槌町など）

備　　考：岩手県庁：https://www.pref.iwate.jp/

三陸鉄道株式会社：https://www.sanrikutetsudou.com/

A34. 「東京飽きたへん？鳥取来てごしないや」 ～鳥取県米子・大山で考える地方の魅力と課題～



農作業体験と大山トレッキング



米子市役所や大山町役場を訪問し、行政職員の方からまちづくりや観光、教育、医療、森林行政などについて話を伺ったほか、地元の事業者や住民との交流、農作業、大山トレッキング、大神山神社の訪問などを体験した。行政や現地で活動する方々との対話を重ねる中で、米子・大山が抱える課題や、まちをより良くしようとする方々の思いに触れた。最終日には、活動を通じて感じた米子・大山の魅力や課題を共有し、ファンを増やす方法についてグループで議論し、発表を行った。さまざまな人との交流や体験を通して、地方の暮らしやまちづくりについて多角的に考える機会となった。

日　　程：2025/9/18(木)－9/21(日)

参加学生：5名

活動場所：鳥取県米子市・大山町

A35. 真冬の雪中に桜が咲く郷＜山形県西川町＞啓翁桜とかくれ積雪日本一の地域体験



啓翁桜の栽培について学ぶ

山形県西川町について事前学習を行い、人口・産業構造や気候などを調査した上で、啓翁桜の生産・出荷現場や卸売市場、酒蔵、温泉、豪雪地域の暮らしなどを見学・体験した。特に、豪雪を生かした啓翁桜の促成栽培やスマート農業、地域資源を活用した産業振興について、生産者や行政の方々から直接話を伺った。また、生産から販売まで多くの人々の協力や交渉によって地域産業が成り立つことを実感し、統計や制度だけでは見えない現場の実情や人々の思いを理解する重要性を学んだ。今後は、地域ごとの背景や住民の声を踏まえ、地方創生や自身の専門分野に活かしていきたい。

日　　程：2026/2/17(火)－2/18(水)

参加学生：5 名

活動場所：山形県西村山郡西川町

A36. 競走馬のふるさと日高～牧場から学ぶ軽種馬(サラブレッド)産業の今と未来～





牧場で学ぶ馬とのふれあい

競走馬の生産牧場・育成牧場・競馬場・養老牧場・種牡馬管理の現場などを訪問し、競走馬の生産から引退後までのライフステージや軽種馬産業について学んだ。また、牧場関係者や地域住民へのヒアリング、ワークショップを通じて、新冠町や日高地域が抱える課題と地域振興の可能性を検討し、最終日には町長や町役場関係者らに政策提言を行った。活動を通じて、軽種馬産業が課題を抱える一方で、多くの強みや魅力を持つことを実感した。今後も日高・新冠との関係を大切にし、地域社会の課題について考えながら、継続的に関わっていきたい。

日　　程：2025/8/25(月)－8/29(金)

参加学生：4 名

活動場所：北海道新冠郡新冠町

A37. 伝統工芸木炭生産技術保存会とともに出雲國でたたら製鉄



製鉄技術を体験

出雲國でのたたら製鉄体験を通じて、日本の伝統的な製鉄技術について学んだ。炭焼き現場での炭の取り出しや選別に始まり、窯土の練成、炭割り、炉の製作を経て、実際の操業では砂鉄や木炭の投入、送風、記録、ノロ出しなどを分担し、鉧を取り出すまでの工程を体験した。最終日には技術保持者の村下から、たたら製鉄の歴史や技術について説明を受けた。また、参加者同士で活動を振り返り、学びを共有・議論することで理解を深めた。

日　　程：2025/8/20(水)－8/24(日)

参加学生：3 名

活動場所：島根県出雲市

備　　考：たたら製鉄とは：https://tatara-iron-making-okuizumo.jp/about

A38. 伝統工芸木炭生産技術保存会とともに伝統工芸に必要な駿河炭を焼く

伝統工芸品の製作に用いられる研磨炭について、原木の準備から窯詰め、焼成、窯出しまでの一連の工程を体験した。高さ約 1m のホオノキを窯に隙間なく詰め、上昇気流を利用して約 22 時間かけて蒸し焼きにした。50kg の原木から製品として利用できたのは約 1kg にとどまり、焼成時間が長くなったことで炭が硬くなり、求められる品質を十分に満たせなかった。この経験を通じて、研磨炭の製造には、原木の扱いや焼成時間など、細かな条件の調整と高い技術が求められることを学んだ。

日　　程：2026/3/7 日(土)－3/11(水)

参加学生：1 名

活動場所：岡山県瀬戸内市・鏡野町

備　　考：伝統工芸木炭生産技術保存会：https://www.mokutanworks.com/

A39. 伊豆の体験活動　－南伊豆という一地域との連携に学ぶ－

南伊豆の樹芸研究所に宿泊し、石井林業の方々の協力のもと、林業や森林が抱える課題について学んだ。間伐・植林現場の見学では、林業経営の実態や法制度とのずれについて説明を受け、薪割りや薪の運搬、椎茸の駒打ちなども体験した。また、本枯れ節工場の見学を通じて、森林資源と地域産業とのつながりについて理解を深めた。さらに、捕獲されたイノシシの解体からソーセージ作りまでを体験し、獣害問題や命の循環について考えた。地域の方々との対話や参加者同士の議論を通じて、現場の実情を知り、多角的に課題を捉えることの重要性を学んだ。

日　　程：2026/2/13(金)－2/16(月)、3/13(金)－3/16(月)

参加学生：4 名

活動場所：静岡県賀茂郡南伊豆町

備　　考：附属演習林樹芸研究所：https://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/jyugei/



椎茸の駒打ち体験



腸詰め作業

A40. 海の恵みを体感！長崎水産業の未来を考える旅

長崎市の高島で海洋プラスチックごみやサンゴ再生についての環境学習を行い、飛鳥磯釣公園の見学を通して海洋環境について学んだ。戸石エリアではシマアジや鯛、フグなどの養殖いけすを見学し、牧島では魚をさばく様子を見学するとともに、新鮮な魚を使った海鮮丼や刺身を味わった。伊王島ではカマスティック作りを体験し、最終日には長崎市長との意見交換を行った。活動を通じて、豊富な水産資源を持つ一方、魚種の多さによるブランド化や販路拡大などの課題を抱える水産業の現状を学んだ。また、漁業者や事業者、市職員などさまざまな立場の方と交流し、現地の声を直接聞くことで、水産業の可能性と課題について考える機会となった。

日　　程：2025/9/23(水)－9/25(金)

参加学生：10 名

活動場所：長崎県長崎市

備　　考：長崎市役所水産振興課：
https://www.city.nagasaki.lg.jp/soshiki/104/



養殖いけすの見学



高島の海で海洋環境を体感

A41. 中山間地域を見る・感じる・考える～北海道鷹栖町で、今後の中山間地域・地方創生について考えよう

北海道鷹栖町を訪れ、町の現状や課題、まちづくりについて学んだ。農家や農協、福祉関係者、役場職員、移住者、地域おこし協力隊など、さまざまな立場の方々へのヒアリングを通じて、農業や福祉、移住、地域活性化などについて理解を深めた。また、農業や福祉、歴史に関わる施設を見学し、地域の取り組みを実際に知ることができた。特に農業では、異なる立場から同じ課題について話を伺うことで、多面的な視点を得た。最終日には、調査結果をもとに町の現状と課題を整理し、地域活性化や情報発信につながる施策を町長や職員の方々に提案した。

日　　程：2025/8/25(月)－8/29(金)

参加学生：3 名

活動場所：北海道上川郡鷹栖町



ブドウ畑で栽培について学ぶ

A42. 持続可能なライフスタイルへの変遷を実現するための科学的アプローチに基づくフィールド実践体験

宮城県川崎町で、薪割りや稲刈り、野菜の収穫、炭焼き、ハンギ作り、自伐型林業の見学などを通じて、里山の暮らしを体験した。また、地元のカフェ経営者や温泉旅館の湯守、移住者、研究者らとの交流を通じて、自然資源を生かした暮らしや事業の工夫、地域コミュニティのつながりについて学んだ。都市では得にくい体験や多様な価値観に触れ、自身の固定観念を見直すきっかけにもなった。今後は、都市と地方の双方の視点を持ち、自然や地域資源を生かした持続可能な暮らしや地域づくりについて学びを深めるとともに、自らも積極的に地域と関わっていきたい。

日　　程：2025/10/11(土)－10/13(月)

参加学生：7 名

活動場所：宮城県柴田郡川崎町青根地区（蔵王山麓）

備　　考：株式会社 百:https://momo100sho.com/



薪割り体験



焚き火での調理

A43. 東大の牧場に行って山羊、豚、牛、馬の世話とトラクターを体験しよう

乳牛の餌やりや搾乳、動物の世話、農園での作業、チーズやバター作りなど、幅広い活動を体験した。3 人の班で声を掛け合いながら役割を分担し、片付けや掃除にも協力して取り組む中で、チームワークの大切さや作業を円滑に進める工夫を学んだ。また、農場の方の説明を通じて、普段何気なく口にしている乳製品や肉類が、多くの手間と厳しい管理によって支えられていることを実感した。農業を事業として継続する難しさにも触れ、日々の食生活を支える生産者の工夫や苦労、農業が果たす役割の大きさを改めて認識した。

日　　程：2025/9/3(水)－9/5(金)

参加学生：3 名

活動場所：附属牧場（茨城県笠間市）





農場での作業と動物とのふれあい

A44. 暮らしの中で環境に配慮した物質の循環を考える



ごみ処理・分別施設の見学

亀岡市長との面会や市職員からの説明を通じて、環境先進都市を目指す亀岡市の取り組みについて学んだ。その後、パラグライダーを再利用した製品の工房やごみ処理・分別施設、紙おむつのリサイクル工場などを見学し、環境対策と地域の産業や暮らしを結びつけた資源循環の仕組みについて学んだ。また、保津川ではアユモドキの生息数調査に参加し、実際に川に入って捕獲や標識付けを体験するとともに、保護活動に取り組む方から生態や保全について話を伺った。現地での体験や関係者との交流を通じて、環境問題を暮らしや産業、生物多様性など多様な視点から考える機会となった。



アユモドキ調査

日　　程：2025/9/19(金)－9/20(土)
参加学生：6 名
活動場所：京都府亀岡市
備　　考：亀岡市役所：https://www.city.kameoka.kyoto.jp/

A45. 北海道の遺跡博物館における学芸員体験と冬のオホーツク文化体験





オホーツクの自然と風景

北海道北見市の常呂実習施設で、縄文時代からアイヌ文化に至る北海道の歴史や考古学について学んだ。講義では、縄文、続縄文、擦文、オホーツク、トビニタイなど各文化の特徴や変遷について理解を深め、周辺の博物館や遺跡の見学を通じて、実物資料や遺跡への理解を深めた。また、遺跡の館で模擬展示解説を行い、考古学的な内容を分かりやすく伝える方法を実践的に学んだ。さらに、発掘記録写真の整理・デジタル化や勾玉制作にも取り組んだ。これらの活動を通じて、考古学研究に加え、資料の保存や展示解説など、学芸員の業務についても実践的に学ぶことができた。

日　　程：2026/2/16(月)－2/19(木)
参加学生：5 名
活動場所：常呂実習施設、北見市ところ遺跡の森（北海道北見市常呂町）

A46. 森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験
～世界の水文研究を支える超長期観測やバイオマスバリューチェーンの実装～



砂出し作業

赤津研究林で気象・水文観測を体験し、白坂量水堰では土砂の測量と砂出しを行った。砂出しの前後で土砂量を計測・計算するとともに、ドローンに搭載したLiDARによる測量も体験し、異なる手法で得られたデータを比較した。また、ダイセルとの共同研究の観測現場や、かつてはげ山だった場所に森林が再生した様子を見学し、約 100 年にわたる長期観測の歴史にも触れた。これらの体験を通じて、森林・気象・河川の観測に地道に取り組む研究現場の実情を知り、自然を対象とした研究の意義や、今後の研究・進路について新たな視点を得た。

日　　程：2025/9/24(水)－9/26(金)
参加学生：2 名
活動場所：附属演習林 生態水文学研究所（愛知県瀬戸市）
備　　考：生態水文学研究所：https://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/eri/

A47. 森の人になろう － 森と暮らす仕事

薪割りや落ち葉焚き、森林管理を体験し、和斧は力任せに振るうのではなく、斧自体の重さを活かして使うことや、テコの原理を応用した斧も開発されていることを学んだ。また、地域の人々の暮らしと林業のつながりや、被害木材もその個性を活かして利用する考え方に触れ、自然資源を大切に活用する意識が高まった。こうした実体験を通じて、建築や農学を学ぶ立場から、地産材の活用や地域と自然をつなぐ取り組みの重要性を実感した。

日　　程：2025/12/21(土)－12/22(日)

参加学生：5 名

活動場所：附属演習林 富士癒しの森研究所（山梨県南都留郡山中湖村）



落ち葉焚きの体験

A48. 中世の時代が輝く島根県益田市歴史観光プログラム企画開発プロジェクト

益田市の暮らしや地域の魅力について学ぶライフキャリア教育、市内の中世の史跡を自転車で巡るフィールドワーク、移住者への聞き取り、公民館での地域住民や子どもたちとの交流を通して、益田市の歴史文化と暮らしを学んだ。史跡巡りでは、街道や寺社など現在の街並みに残る痕跡から中世の街の様子を知る面白さを実感した。また、地域の方々との交流を通じて、世代を超えた人のつながりや地域への愛着の強さを知った。人口減少の中でも、住民同士が支え合い、地域の中で楽しみや生きがいをつくる姿が印象に残った。今回の経験を通じて、地方での暮らしや地域との関わり方について考えるきっかけとなった。

日　　程：2025/9/16(火)－9/19(金)

参加学生：4 名

活動場所：島根県益田市

備　　考：益田市役所：https://www.city.masuda.lg.jp/index.html



益田市の街並み

A49. 森が社会に貢献する－持続可能な森づくりへの挑戦－

技術職員の方に教えていただきながら、林分施業法に関わる収穫調査や造材作業、水サンプルの採取、気象データの回収などに取り組んだ。経済的な利益だけでなく、環境や生態系にも配慮した林業の考え方を学び、実際の作業を通してその具体的な方法を体験することができた。また、北海道の森林でさまざまな生物を観察し、関東とは異なる森林環境にも触れた。森林で働くことの一端を実際に体験したことで、フィールドに近い仕事への関心が深まり、将来の進路を考えるきっかけとなった。さらに、研究で扱うデータがどのように現場で取得されているのかを考える視点も得た。

日　　程：2025/9 月－2026/3 月

参加学生：2 名

活動場所：附属演習林北海道演習林（北海道富良野市）

備　　考：北海道演習林：https://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/hokuen/





調査・測定を体験

A50. 保育園や幼稚園、自治体の子育て支援の取り組みについて知ろう

渋谷保育園では、3 歳児の探究活動や保育士の振り返り会議を見学し、子どもの自由な発想や言葉、保育士の専門的な関わり方を観察した。CO しぶやでは、子どもの遊び場に加え、保護者への相談支援や交流の場など、地域全体で子育てを支える仕組みについて学んだ。現場を直接訪れることで、文献や統計だけでは分からない雰囲気や、子どもと保育者の関係性を知ることができた。また、子どもを一人の主体として尊重する視点や、地域・企業・行政が連携して子育てを支えることの重要性を実感した。今後は、研究や日常生活においても、データの背後にある人々や現場に目を向け、多様な分野への理解を深めていきたい。



CO しぶやの施設見学

日　　程：2025/9/20(月)

参加学生：5 名

活動場所：東京都渋谷区（渋谷保育園、CO しぶや）

A51. 空飛ぶクルマとリニア中央新幹線を巡る探求の旅～未来の移動と日本社会を考える～

空飛ぶクルマやリニア中央新幹線について、DBJ、JAL、JR 東海、山梨県などの関係者から話を伺い、未来のモビリティと地域社会について考えた。山梨では人口減少や高齢化へのモビリティ活用について議論し、甲府から名古屋まで実際に移動することで、複数の交通手段を確保することの重要性も実感した。名古屋ではモビリティの未来像を考え、JR 東海タワーを視察した。また、甲府や名古屋の街並みを実際に歩き、交通や都市のあり方を観察した。さまざまな立場の方との議論を通じて、モビリティは技術だけでなく、地域の課題や人々のニーズと結びついて初めて社会に活かされるものだと学んだ。



DBJ の方々と交流

日　　程：2025/8/5 日(火)－8/8(金)

参加学生：8 名

活動場所：東京都、山梨県甲府市、愛知県名古屋市

A52. 帰還困難区域の「街づくり」を考える。ー「復興」の現場に生きる人々の想いとともに ー

福島県双葉郡を訪れ、震災後のまちの現在と、地域の人々が主体となって新たなまちをつくっていく姿を学んだ。双葉駅周辺や学校施設などを見学したほか、教育委員会や教員へのヒアリング調査を行い、双葉郡独自の探究学習「ふるさと創造学」が抱える課題について考察した。現地での調査から、震災を経験していない教員の増加や人事異動による地域とのつながりの継承など、復興が進む中で生じる新たな課題にも気づいた。現場の声を聞き、地域の人々とともに考えることを通して、「復興」とは過去を取り戻すだけでなく、新しい地域を創造していく営みでもあると実感した。





現地調査

日　　程：2025/8/7(木)－8/8(金)、8/25(月)－8/27(水)、10/3(金)－10/5(日)

参加学生：6 名

活動場所：福島県内

A53. 聖地熊野の歴史文化と自然を体験し、地域振興を考える

熊野地域の自然・歴史・文化について、専門家の解説を受けながら熊野三山や二寺を巡り、熊野古道や大峯奥駈道の山歩き、地域の方々との交流を行った。神道・仏教・修験道に加え、植物や地質など多角的な視点から熊野を学び、神仏習合や廃仏毀釈、古道の保全活動について理解を深めた。また、新宮市の市長・教育長との交流を通じて、人口減少など地域が抱える課題についても知った。実際に古道を歩き、自然や文化に触れることで、熊野の歴史や文化が時代とともに変化しながら受け継がれてきたことを実感した。今回の経験を今後の学びに生かし、地域文化の継承や地方行政、社会課題についてさらに考えていきたい。

日　　程：2025/8/28(木)－8/31(日)

参加学生：10 名

活動場所：和歌山県新宮市・那智勝浦町・田辺市本宮町など



熊野古道を歩く

A54. 日本の伝統文化である花火について学び、花火をデザインする

花火の歴史や種類、花火師の仕事について学び、実際の打ち上げ現場や工場を見学したほか、花火業界の方々からお話を伺った。チームに分かれて秋川流域花火大会のスターマインを企画し、音楽に合わせた花火の演出を考えてシミュレーションを作成。自分たちの構想が実際に夜空に打ち上がる瞬間を目にし、花火を「見る側」から「つくる側」の視点で捉える貴重な経験となった。また、花火が日本の伝統文化として受け継がれてきた背景や、担い手不足など業界が抱える課題についても知り、文化を継承していくために何ができるかを考える機会となった。花火の美しさだけでなく、その一発一発に込められた技術や思いに触れ、花火の見方が大きく変わった。

日　　程：2025/8/26(火)－8/27(水)、11/15(土)、11/29(土)－11/30(日)ほか

参加学生：10 名

活動場所：東京都、愛知県

備　　考：株式会社若松屋：https://www.hanabi-wakamatsuya.co.jp/



デザインした打ち上げ花火

A55. 現地で学ぶ石垣島プロジェクト

石垣島でのフィールドワークを通じ、ビーチクリーンや子ども向けのアップサイクル活動、現地高校生との座談会、研究所見学、自然観察など、幅広い活動に参加した。地域の人々と協力して環境保全に取り組む中で、海洋ごみの深刻さを実感するとともに、地域の人々の考えや利害関係は、東京での学習やインターネット上の情報だけでは十分に捉えられないことを学んだ。また、水産研究所などで研究者の話を伺い、地域の環境や生態系について知識を深めた。今回の経験を生かし、今後は現地での対話やインタビューを重視し、環境問題を多様な立場から捉えながら、周囲と協力して持続可能な社会づくりに取り組んでいきたい。

日　　程：2025/9/22(月)－9/26(金)

参加学生：6 名

活動場所：沖縄県石垣市（石垣島）

備　　考：石垣島プロジェクト：https://drive.google.com/file/d/1jPY5_PSO5Lzpj071_zXd_fpMvFLK3Q1i/view



ビーチクリーンで回収したごみ

A56. 東日本大震災からの学びを通して、自分の生き方・在り方・未来を見つめる旅

大槌を訪れ、東日本大震災の被害や復興の過程について、現地の方々から直接お話を伺い、震災の遺構や復興の現場を見学した。震災時の状況を想定したワークショップでは、緊急時における判断や合意形成について考えた。また、大気海洋研究所や地域の NPO を訪問し、海岸での生物観察、海での活動、漁港での作業、薪割りや火起こし、ナイトサファリ、ウニの殻むきなど、地域の自然や産業に関わるさまざまな体験を行った。現地の方々との交流を通じて、震災や復興だけでなく、大槌の自然、産業、人々の暮らしや多様な生き方についても学んだ。

日　　程：2025/8/4(月)－8/8(金)

参加学生：5 名

活動場所：岩手県上閉伊郡大槌町

備　　考：おらが大槌夢広場：https://oraga-otsuchi.jp/



火起こしに挑戦

A58. 日本の伝統文化である花火について深く学び、花火の魅力を感じ、「花火鑑賞士」を目指す！

花火師や日本花火鑑賞士会の方々から、花火の歴史や種類、製造工程、打ち上げ技術、鑑賞方法などを学んだ。現役の花火師から製造へのこだわりや花火に対する思いを伺い、自分が選んだ花火大会や花火会社について調べて発表することで、花火への理解を深めた。10 月には秋田県大仙市を訪れ、花火資料館「はなび・アム」を見学し、「大曲の花火―秋の章―」を実際に鑑賞した。翌日には花火鑑賞士試験を受験し、資格を取得した。花火を作る側と見る側の双方の視点から、花火の魅力や文化について学ぶことができた。

日　　程：2025/8 月－12 月(計 10 日間)

参加学生：8 名

活動場所：東京都、秋田県大仙市

備　　考：日本花火鑑賞士会：https://hanabi-jafa.jp/





花火伝統文化継承資料館にて

A59. 離島で教育活動をしよう～奄美群島 瀬戸内町でのキャリア支援～

瀬戸内町での体験を通じ、離島でありながら行政や教育のデジタル化が進み、小さな町だからこそ実現できる新たな挑戦があることを実感した。子どもサミットでは、自然に囲まれた生活を肯定的に捉える子どもたちの姿が印象的で、教育や豊かさに対する自身の考え方を見直すきっかけとなった。また、地元の人々との温かな交流や祭りへの参加を通じて、人とのつながりの大切さや地方ならではの教育の価値を学び、自身の進路観や価値観にも大きな影響を受けた。

日　　程：2025/8/5(火)－8/8(金)

参加学生：6 名

活動場所：鹿児島県大島郡瀬戸内町

備　　考：特定非営利活動法人 FOS：https://npofos.or.jp/



子どもサミットでの発表に向けた準備

A60. 「坂のまち長崎」で学び、暮らす。

長崎市の斜面地における暮らしやまちづくりについて学んだ。十善寺地区の密集市街地やコミュニティ農園「さかのうえん」を訪れ、斜面地の空き地問題について学ぶとともに、農作業を体験した。また、東山手地区を歩き、まち歩きガイド「長崎さるく」の案内を受け、斜面地の空き家を活用したコミュニティスペース「つくる邸」を訪問した。最終日には長崎市長とワークショップを行い、地域の課題や魅力、今後のまちづくりについて意見を出し合い、成果を発表した。地域の方々との交流を通じ、現地を歩いて課題を知ることの大切さを学んだ。

日　　程：2025/9/24(水)－9/26(金)

参加学生：5 名

活動場所：長崎県長崎市



斜面地現地調査



長崎のまちづくりについて考える

A61. 観光地西表島の自然の魅力を存分に堪能し、存分に環境保全の意義について考える

西表島・石垣島で、農業や観光、自然環境、地域課題について学んだ。大浜農園では農作業を体験するとともに、輸送コストや資源の確保、地産地消など、離島農業が抱える課題について話を伺った。また、マングローブ林でのカヌーやトレッキング、水牛車体験を通して、西表島の豊かな自然に触れた。西表野生生物保護センターでは、イリオモテヤマネコをはじめとする野生生物や生態系について学び、その保全の重要性を理解した。さらに、石垣島ではビーチクリーン活動に参加し、海洋ごみ問題の深刻さを実感した。これらの体験を通じて、自然環境と人々の暮らしの関わりや、地域が抱える課題とその解決について考える機会となった。

日　　程：2026/3/22(日)－3/26(木)

参加学生：4 名

活動場所：沖縄県八重山郡竹富町（西表島）・石垣市（石垣島）

A63. 未来を指向する地方自治体の活動への参加

三重県玉城町を訪れ、町長・副町長・教育長・議長などの関係者へのヒアリングを行い、保育士不足や若手人材の流動性、高度人材の受け皿不足など、地域が抱える課題について考えた。ヒアリングの設計や進行、議事録作成、政策提案の骨子づくり、プレゼン資料の作成などにも取り組んだ。皇學館大学の学生 2 名とともに、それまでの議論を共有しながら、協力して提案をまとめた。最終的に、町の課題と解決策について多角的に検討し、「若手が日本一挑戦しやすい町へ」という政策提案を行った。行政の方々との対話を通じ、地域の未来を現場の声から考えることの重要性を学んだ。

日　　程：2025/7/28(月)－8/8(金)

参加学生：1 名

活動場所：三重県度会郡玉城町

A64. 野宿学（雪国編） 「雪国でイグルーを自作して一晩過ごしてみよう」

長野県戸狩温泉周辺で、雪の中での生活体験を通して、自然環境への適応や先人の知恵について学んだ。初日はイグルーの作り方を学び、2 日目にはスコップやノコギリを使って雪をブロック状に切り出し、参加者同士で協力しながらイグルーを完成させた。寝袋やマットを持ち込み、屋外で調理した食事をとった後、イグルー内で一泊した。3 日目には、かんじきを履いて雪上を歩き、積雪環境での生活を体験した。また、トロント大学の学生と英語で交流し、国際交流を深めた。これらの活動を通じて、厳しい自然環境に適応するための工夫や、参加者同士の協力、コミュニケーションの重要性について学んだ。

日　　程：2026/2/18(水)－2/20(金)

参加学生：5 名

活動場所：長野県飯山市（戸狩温泉周辺）

備　　考：東京大学野宿学イグルー作って一晩過ごす：
https://www.youtube.com/watch?v=hVRUQoFIHcA



イグルーの制作風景



夜のイグルー

【海外プログラム】

B1. オーストラリア最高峰のリハビリ医療(脳挫傷・脊椎損傷)見学・体験


施設の説明を受ける

Royal Rehab での見学を通じ、リハビリ医療を医療施設だけでなく、患者の生活環境や社会との関わりまで含めて考えることができた。病棟でのケアや多職種連携、最新のリハビリ機器に加え、ソーシャルワーカーによる在宅調査にも同行し、退院後の暮らしを支える環境の重要性を学んだ。また、ユニバーサルデザインに関する専門家との交流から、誰もが使いやすい空間をつくることの意味を改めて考えた。日本との違いを実際の現場で知り、自分の専門分野を広い視野から見直す機会となった。

日　　程：2025/8/4(月)－9/5(金)
参加学生：3 名
活動場所：オーストラリア
備　　考：Royal Rehab：https://royalrehab-ryde.com.au/public-rehab-services/

B2. サウジアラビア　プリンセスヌーラ大学　国際交流体験活動


ラクダ乗り体験

サウジアラビアのプリンセス・ヌーラ大学でアラビア語の授業を受け、現地学生との交流や、リヤド市内の見学、歴史的建造物や砂漠でのフィールドワークを行った。活動を通して、イスラム文化を一括りに捉えるのではなく、地域や個人によって異なる価値観や生活を丁寧に理解することの重要性を学んだ。現地学生との対話を通じて、アバヤや宗教的慣習に対する当事者の考えに触れ、渡航前に抱いていた固定観念を見直すきっかけとなった。また、異文化交流では、自らの考えを伝えるだけでなく、相手の話に耳を傾け、その背景を尊重する姿勢が大切だと実感した。今後もアラビア語の学習を続け、イスラム圏への理解を深めるとともに、研究や国際交流に生かしていきたい。

日　　程：2026/2/7(日)－2/14(日)
参加学生：10 名
活動場所：サウジアラビア・リヤド
備　　考：プリンセス・ヌーラ大学：https://pnu.edu.sa/en/Pages/Home.aspx
　　MbSC2030 総括寄付講座：https://mbscenter.u-tokyo.ac.jp/

B3. インドを深く学ぶ旅ー日印学生交流を中心として


子どもたちとの交流と街並み



デリー大学の学生との交流をはじめ、インドのさまざまな都市を訪れ、現地の人々との触れ合いを通じて、生活や文化を体感した。また、宗教に関わる場所を訪れ、インド社会において宗教が果たす役割について学んだ。都市部と農村部の両方を訪れたことで、急速な経済発展の一方で、貧困や格差といった課題が存在することを実感した。日本とは異なる文化や習慣に触れ、自分自身の価値観を見つめ直す貴重な機会となった。

日　　程：2025/9/10(水)－9/18(木)
参加学生：12 名
活動場所：インド（デリー、ブッダガヤ、ヴァラナシなど）

B4. 台湾大学実験林での体験活動～亜熱帯の森林と林業を学ぶ～

台湾大学の溪頭演習林で、昆虫観察や木登り、植物を使った軟膏作り、台湾茶の栽培、木材加工など、森林や自然に関する多様な活動を体験した。講義や台湾大学の学生との交流を通じて、森林の利用や管理について実践的に学んだ。特に、溪頭演習林が木材生産だけでなく、観光・研究・教育の場としても森林を活用していることを知り、森林の多面的な価値について理解を深めた。こうした活用のあり方は、日本の林業や森林管理を考えるうえでも参考になると感じた。また、台湾大学の学生との交流や台北市内の訪問を通じて、台湾の文化や生活にも触れ、現地への理解を深めた。

日　　程：2026/2/22(日)－3/2(月)
参加学生：5 名
活動場所：台湾（台北市、南投県）
備　　考：台湾大実験林：https://www.exfo.ntu.edu.tw/jp.php?id=2
　　附属演習林：https://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/


木登り体験

B5. ベトナムを知れば、日本の将来が見えてくる！ ～ベトナムの学生・企業等との交流～

日系企業や JICA、大使館などの公的機関、現地大学を訪問し、都市開発や製造、会計、法律など、幅広い分野における日本とベトナムの関わりについて学んだ。企業訪問の調整や訪問先との連絡を自ら担った参加者もおり、現地で働く社会人との交流を通じて、ベトナムの急速な経済成長と社会の活気を実感した。また、日本企業が現地の文化や生活様式に応じて事業戦略を工夫していることも学んだ。二週間の滞在を通じて、異文化の中で柔軟に行動する力や、人とのつながりの重要性を認識するとともに、海外勤務や国際的なキャリアへの関心が高まった。日本を相対的に捉え、広い視野から将来の進路を考える機会となった。

日　　程：【ハノイ】2025/8/18(月)－8/23(土)
　　【ホーチミン】2025/8/25(月)－8/30(土)
参加学生：19 名
活動場所：ベトナム（ハノイ、ホーチミン）


日本企業の建設現場を視察

B6. 芸術の都フィレンツェで文化財保護を学ぶ

フィレンツェに約 1 週間滞在し、ウフィツィ美術館やラウレンツィアーナ図書館、修道院、文化財の修復現場などを訪れ、ルネサンス期の美術・文学・歴史を現地で学んだ。『神曲』の貴重な写本や文化財を実際に見学し、教員や現地関係者の解説を受けることで、現地の資料や作品を通じて学ぶ意義を実感した。また、フィレンツェ大学の学生との交流や国際シンポジウムへの参加を通じて、異文化交流の機会も得た。自由時間には各自の興味に応じて観光や学習に取り組み、自主性や行動力を養った。海外での生活を経験する中で、自立心やコミュニケーション能力を高めるとともに、文化財や美術史への関心が深まり、海外で働くことへの意欲も高まった。

日　　程：2025/9/13(土)－9/19(金)
参加学生：8 名
活動場所：イタリア（フィレンツェ）


図書館での稀覯本見学


洗礼堂の修復現場

B7. モルディブは万華鏡：環礁国で学ぶ気候変動・観光開発・国際関係・イスラム文化

マレやフルマーレでの街歩きに加え、JICA、在モルディブ日本大使館、モルディブ外務省、開発公社、UNDP、UNICEF などを訪問し、国際協力、外交、都市開発、社会課題について現地で話を伺った。さらに、モルディブ国立大学の学生との交流や、ローカル島・リゾート島への訪問を通じ、リゾートというイメージだけではわからないモルディブの暮らしや文化を知った。現地の人々との交流を通して、イスラム文化や気候変動、国際関係などについても理解を深めることができた。今回の経験を今後の学びや進路に生かし、国際的な課題についてさらに考えていきたい。

日　　程：2025/9/6(土)－9/14(日)
参加学生：6 名
活動場所：モルディブ（マレ、フルマーレ、ビリンギリ島、フラー島）





現地の機関・島を訪問

B8. 台湾を知る、台湾近代史へのご招待

台湾各地を巡り、歴史的な現場で近代史についてのレクチャーを受けた。台南では安平古堡や烏山頭ダムなどの歴史的遺構を訪れ、先住民居住区では現地の方との交流を通じて、台湾の文化や歴史について学んだ。また、二二八記念館や国家人権博物館などを訪問し、台湾の社会や民主化の歩みについて理解を深めた。さまざまな立場や背景から歴史を捉えることで、台湾の多層的な歴史への理解が深まり、現地の人々との対話を通じて学ぶことの大切さを実感した。今後も多様な視点を大切にして学びを深めていきたい。

日　　程：2026/2/22(日)－3/1(日)
参加学生：9 名
活動場所：台湾（台北市、新竹市、台南市、屏東県）





中正記念堂・TSMC イノベーション博物館を訪問

B9. シンガポールでビジネスを学んでみよう

医療・法律・教育・会計・金融など幅広い分野の企業や機関を訪問し、現地で活躍する卒業生や社会人との交流を通じて、各業界の特徴や経営戦略、海外展開について学んだ。多民族・多文化社会で事業を展開する上で、異なる文化や価値観を尊重し、信頼関係を築くことの重要性を実感した。また、海外から日本を見つめ直すことで、日本の強みや課題を考える視点を得るとともに、英語で自分の考えを明確に伝える力や、世界情勢について学び続ける姿勢の必要性を認識した。多様な業界や働き方に触れたことで将来の進路の選択肢が広がり、国際的な視野を持って社会に貢献したいという意識が高まった。

日　　程：2025/8/30(土)－9/7(日)
参加学生：8 名
活動場所：シンガポール
備　　考：シンガポール淡青会：https://tanseikai.sg/



日本政策投資銀行を訪問



シンガポールの夜の街並み

B10. 英国ロンドン、海外で働くとは



ロンドンの街並みを散策

ロンドンに拠点を置く企業や政府機関、大学などを訪問し、現地で働く卒業生や関係者から、海外での働き方やキャリア、ロンドンのビジネス環境について話を伺った。三菱重工、SMBC、JETRO などでは、業界や企業の特徴に加え、海外で働く上での考え方について学び、ワークショップや座談会にも参加した。また、オックスフォード大学では留学中の日本人学生と交流した。訪問先との連絡や事前準備も学生同士で分担し、主体的に活動した。幅広い業界や働き方に触れ、海外で働くことへの理解を深めるとともに、将来の進路やキャリアについて考えるきっかけを得た。

日　　程：2026/2/16(月)－2/20(金)

参加学生：10 名

活動場所：英国（ロンドン、オックスフォード）

B11. ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション



ハーバード大学医学部

ハーバード大学をはじめとする大学・研究機関、病院、製薬会社などを訪問し、現地で研究や臨床に携わる日本人研究者から、研究内容や海外で働くことの魅力と課題、留学やキャリア形成について話を伺った。研究者との交流や参加者同士の議論を通じて、海外大学院への進学や、研究者、臨床医、企業駐在員など、多様な進路があることを知り、将来の選択肢を広げることができた。また、現地での生活を経験したことで、海外で働くことへの心理的なハードルが下がり、英語力の向上や研究への意欲にもつながった。今回の研修を通じて、海外大学院への進学や米国で研究・就業することが、将来の選択肢としてより身近なものとなり、自身の進路について具体的に考えるきっかけとなった。

日　　程：2025/8/15(金)－8/23(土)

参加学生：8 名

活動場所：アメリカ合衆国（ボストン）

備　　考：The Umemori Lab: https://umemorilab.wordpress.com

B12. VE_italia ・Veneto Experience プログラム





ヴェネツィアでのゴンドラ体験

ヴェネツィアを中心に約 2 週間、街のフィールドワークやカルロ・スカルパの建築作品の見学、現地の人々との交流、最終発表に取り組んだ。地図を持たずに街を歩き、空間や人々の営みを観察することで、自ら問いを立て、直感や気づきを大切にする姿勢を学んだ。また、建築が周囲の環境や利用者、芸術性との調和によって成り立つことを実感し、自らの感覚を通じて物事を捉えることの重要性にも気づいた。参加者同士や現地の人々との交流を通じて、コミュニケーションや人とのつながりの大切さも学んだ。今後は、固定観念にとらわれず、周囲との関係を大切にしながら、自ら考え行動する姿勢を勉学や進路選択に生かしていきたい。

日　　程：2025/8/30(土)－9/12(金)

参加学生：8 名

活動場所：イタリア（ヴェネツィア）

備　　考：VENETO プログラム：venetoexperience.com/program

B13. インド工科大学マドラス校での学生交流と文化体験活動



インド工科大学マドラス校にて

インド工科大学マドラス校（IITM）を訪問し、日本語授業への参加や日本文化ワークショップ、研究施設・授業の見学、現地学生との交流を行った。折り紙や書道、浴衣の着付けなどを担当し、英語で日本文化を伝える経験を得た。また、現地学生や教授、現地に駐在する東京大学の卒業生との交流を通じて、インドの高い学習意欲や技術力、社会の成長の勢いを実感するとともに、貧富の差や環境問題などの社会課題にも目を向けるようになった。異文化交流の楽しさを実感し、英語力の向上や海外留学・就労への意欲が高まったほか、将来の進路や学ぶ目的を改めて考える貴重な機会となった。

日　　程：2026/2/15(日)－2/22(日)

参加学生：8 名

活動場所：インド（チェンナイ、デリー）

備　　考：インド工科大学マドラス校：https://www.iitm.ac.in/



サイクルリキシャで移動

B14. サウジアラビア　キングサウード大学　国際交流体験活動



キングサウード大学での交流

キングサウード大学の工学部研究室を訪問し、水・電気・石油・化学・機械など多様な分野の研究に触れるとともに、サウジアラビアが直面するエネルギーや水資源の課題、持続可能な社会の実現に向けた取り組みについて学んだ。また、日本語専攻の学生との交流及び日本文化の紹介、歴史遺産の訪問を通じて、現地の文化や価値観に触れた。特に、現地学生との対話を通じて、異なる文化や宗教を理解しようとする姿勢と、英語で自分の考えを伝え、相手の考えを聞くことの大切さを実感した。国や地域によって直面する課題が異なり、それに応じて工学に求められる役割も異なることに気づいた。今回の経験を通じて視野が広がり、語学力と専門性を磨きながら、異文化を尊重し、国際社会に貢献できる人材を目指したい。

日　　程：2025/9/14(日)－9/25(木)

参加学生：10 名

活動場所：サウジアラビア（リヤド）

備　　考：キングサウード大学：https://ksu.edu.sa/en/home



世界の果て

B15. アラブ首長国連邦の「いま」



現地の方から説明を受ける

アブダビ、アルアイン、ドバイで、大学、日系企業、国際機関、エネルギー関連施設、文化施設などを訪問した。大学では現地学生と交流し、日本文化を紹介しながら互いの大学生活や文化について語り合った。企業や IRENA では海外で働くことやエネルギー政策について話を伺い、DEWA の大規模な太陽光発電施設や持続可能な都市開発の現場も見学した。モスクやオアシス、砂漠などを訪れ、イスラム文化や UAE の暮らしにも触れた。現地を自分の目で見ることで、エネルギーや都市開発、文化について、知識だけでは得られない実感を伴った学びを得た。

日　　程：2025/9/12(金)－9/22(日)

参加学生：6 名

活動場所：アラブ首長国連邦（アブダビ、アルアイン、ドバイ）

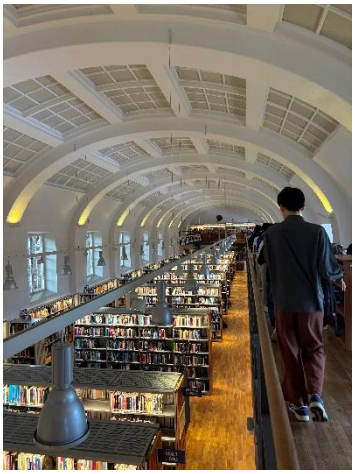
B16. スウェーデン王立工科大学（KTH）での国際交流体験活動-学生交流と企業訪問を通して-

スウェーデン王立工科大学（KTH）を訪問し、日本語を学ぶ現地学生との言語・文化交流や授業への参加、大学のイノベーション活動や研究施設の見学を行った。KTH やストックホルムについて事前に調査・発表を行い、授業では東京大学や日本文化について英語で紹介した。現地学生との交流を通じて、英語で自分の考えを伝えることへの抵抗感が薄れ、異文化交流の楽しさを実感した。また、日本から遠く離れた場所でも日本に関心を持つ人が多いことを知り、日本文化の魅力を改めて認識した。海外の大学で学ぶ経験を通じて留学を身近に感じ、今後は英語力の向上に努めるとともに、交換留学や海外大学院への進学も視野に入れ、積極的に国際交流に挑戦していきたい。

日　　程：2025/9/14(日)－9/25(木)

参加学生：8 名

活動場所：スウェーデン（ストックホルム）



スウェーデン王立工科大学の図書館

B17. タイ伝統医療とヘルスプロモーション政策：グローバル化の未来を考える

タイ伝統マッサージの実践や施術体験、大学・病院での講義、現地の学生や教員との意見交換、植物園の見学などを通じて、タイの伝統医療について幅広く学んだ。薬用植物や香草を用いた治療法や、西洋医療と統合されてきた過程を知り、伝統医療の特徴や役割について理解を深めた。また、タイ語が十分に通じない環境でも、英語やジェスチャーを交えながら現地の人々と交流し、英語でコミュニケーションを取ることへの自信につながった。道案内や店探し、人数管理などにも主体的に取り組み、慣れない環境でも状況に応じて行動する力を身につけた。

日　　程：2025/8/26(火)－8/29(金)

参加学生：10 名

活動場所：タイ（バンコク）





ルーシーダットン体験・寺院見学

B18. Tokyo Oxford Programme of Summer（TOPS 2025）

オクスフォード、ケンブリッジ、エディンバラで約 1 か月間、法学・古典の講義や少人数のチュートリアルを英語で受講し、論文執筆や卒業論文の研究発表、最終プレゼンテーションにも取り組んだ。コモン・ローやローマ法、古代ギリシャ文学などを学ぶ中で、専門分野に加えて異分野を学ぶことの重要性を実感した。また、現地での生活や他大学の学生との交流を通じて、自ら調べて行動するとともに、英語で積極的に意見を伝える力を養った。今回の経験を通じて海外留学への自信と意欲が高まり、将来の国際的な法務や研究活動を見据え、今後も英語力と専門性を高めていきたい。

日　　程：2025/8/2(土)－9/1(月)

参加学生：11 名

活動場所：英国（オクスフォード、ケンブリッジ、エディンバラ）

備　　考：オクスフォード大学 ジーザス・コレッジ：https://www.jesus.ox.ac.uk/

Mayer Brown：https://www.mayerbrown.com/



クライスト・チャーチにて



パンティングツアー

B19. Cambridge 大学での国際交流体験活動

ケンブリッジ大学との学生交流プログラムに参加し、英語での交流や工学部の授業への参加、大学・カレッジの訪問、英国文化の体験など、幅広い活動に取り組んだ。事前準備では、自己紹介シートの作成やキャンパスツアー、英国文化についての発表を担当し、現地でも会計や予約・注文などの役割を担った。ケンブリッジ大学の学生との交流を通じて、英国の文化や学生生活に触れるとともに、異なる文化や価値観を持つ学生との交流の楽しさを実感した。また、英語を使って自ら行動し、問題を解決する経験を通じて、英語での発信力や主体的に行動する力への自信が高まった。今回の経験を通じて海外留学への意欲が高まり、今後も英語力を磨きながら、積極的に新たな環境に挑戦していきたい。



ケンブリッジ大学の学生との交流

日　　程：2026/3/1(日)－3/9(月)
参加学生：8 名
活動場所：英国（ケンブリッジ、ロンドン）
備　　考：工学教育推進機構 国際教育部門日本語教育コース：https://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/ja/

B20. 中国訪問 + キャンパスツアーと学生交流

多様な企業への訪問や経営者との交流を通じて、仕事に情熱を注ぐ姿勢や責任感の大切さを学び、大きな刺激を受けた。また、起業に関する実践的な知識や海外展開における課題に触れ、将来の進路や可能性について視野が広がった。中国の技術発展の速さや現地の実情を自らの目で確かめたことで、これまで抱いていたイメージが大きく変わり、現地に足を運び、直接見聞きすることの重要性を実感した。現地の人々との対話や交流を通じて、相互理解の大切さを学ぶとともに、語学力を高めたいという意欲も強まった。今回の経験を糧に、将来は日中の架け橋となれるよう、語学力と国際的な視野を磨いていきたい。



北京大学を訪問

日　　程：2026/3/9(月)－3/18(水)
参加学生：9 名
活動場所：中国（北京、上海）
備　　考：Science Portal China：https://spc.jst.go.jp/

B21. ケニアスタディーツアー ～リアルなアフリカへの第一歩～

ケニアのナイロビや地方を訪れ、紅茶工場やコーヒー農園、学校、地域活動団体、JICA ケニア事務所などの見学を通して、現地の産業や文化、社会課題、国際協力について学んだ。地域住民や国会議員との対話、民族文化の体験、マサイ村の訪問、国立公園でのサファリなどを通じて、都市部と地方の暮らしの違いや、野生動物と人間の共存について理解を深めた。また、地域の人々が主体的に課題解決に取り組む姿に触れ、国際協力や地域の持続的な発展について考えた。現地での多様な経験や人々との交流を通じて視野を広げ、今後の学びや将来の進路について考える貴重な機会となった。





子どもたちとの交流や紅茶農園の見学

日　　程：2025/9/11(木)－9/21(日)
参加学生：11 名
活動場所：ケニア（ナイロビ、ロイトキトク、モンバサなど）

B22. 世界を拓く知の冒険――清華大学×東京大学 国際交流プログラム



ロボット技術に触れる

清華大学を訪問し、広大なキャンパスや多様な学食、キャッシュレス化の進んだ社会などを通して、中国の IT 化や社会の変化を体感した。授業では、学生が主体的に議論を進める姿に刺激を受け、学び合う姿勢の大切さを感じた。また、大使館の見学や企業訪問、現地学生との交流を通じて、中国の技術発展や価値観、日中関係への理解を深めた。初めての海外経験を通じて自信を得るとともに、語学力の向上や留学への意欲が高まった。

日　　程：2025/9/15(月)－9/21(日)

参加学生：9 名

活動場所：中国・北京市

備　　考：東京大学・清華大学の学生交流プログラム：https://sp.t.u-tokyo.ac.jp/UTokyo_THU/studentsevent/

B23. 熱帯林の保全と修復の現場で語り合う



森林保全の現場を訪問

インドネシア・カリマンタン島を訪問し、ムラワルマン大学での講義や現地学生との交流に加え、国立公園や保全林、苗場、石炭採掘場、熱帯雨林の再生現場などを見学した。実際に森林に入り、植林を行うなどの実習にも取り組み、熱帯林の保全と再生について学んだ。また、新首都ヌサンタラを訪れ、自然との共生や持続可能な都市づくりについて考えた。現地学生とともに熱帯林やインドネシアの社会・文化について調べ、プレゼンテーションも行った。森林保全には自然科学だけでなく、社会制度や人とのつながりも重要であることを学び、多様な視点から課題を考えるきっかけとなった。



ムラワルマン大学の学生との交流

日　　程：2025/7/27(日)－8/3(日)

参加学生：5 名

活動場所：インドネシア・東カリマンタン州

B24. シリコンバレーハイテク企業社員の生の声を聞く国際交流体験



Google を訪問

シリコンバレーで働くエンジニアや起業家、スタートアップ関係者などに自らアポイントを取り、キャリアや働き方、最先端技術、日米の環境の違いについて話を伺った。現地で活躍する人々との対話を通じ、海外で働くことの魅力に加え、レイオフや物価高といった厳しい現実にも触れ、キャリアの選択肢を具体的に考える機会となった。また、自ら一歩踏み出して人とつながることが、新たな出会いや可能性を生み出すことを実感した。今回の経験を通じて、海外留学やシリコンバレーで働くことへの関心が高まり、将来の進路や起業・スタートアップとの関わり方について考えを深めた。



シェアハウスでみんなと

日　　程：2025/8/23(土)－8/30(土)

参加学生：12 名

活動場所：アメリカ合衆国（サンフランシスコ・サンノゼ周辺）

B25. ニューヨークで働くということ

ニューヨークで働く方々を訪問し、5 日間で計 15 の企業・機関を訪ねた。現地で働く方々から、仕事内容やキャリアパス、仕事上の苦労、英語学習、結婚や子育てとキャリアの両立などについて話を伺い、質疑応答やディスカッションを行った。訪問先の事前調査や質問の準備、移動ルートの確認なども学生同士で分担し、主体的に活動した。実際に働くオフィスやニューヨークの街の雰囲気に触れながら、多様なキャリアの歩みを知ることで、海外で働くことをより具体的にイメージできるようになった。また、英語力や専門性を高める必要性を実感し、将来の進路を考えるきっかけとなった。

日　　程：2025/8/25(月)－8/29(金)

参加学生：10 名

活動場所：アメリカ合衆国（ニューヨーク・マンハッタン）



ニューヨーク証券取引所を訪問



タイムズスクエアにて

B26. アメリカで仕事をすることの素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう

大学、民間企業、国際機関、在外公館、シンクタンクなど約 20 機関を訪問し、米国の政治・経済・外交や多様なキャリアについて学んだ。訪問先の調整や事前調査、宿泊・移動管理、会計などの運営を担い、訪問先でも積極的に質問や議論を行った。世界銀行や IMF などで活躍する方々との交流を通じ、ネットワークの重要性や実力主義の厳しさ、多様なキャリアの可能性を実感した。また、異なる専門分野や学年の参加者との交流も刺激となり、海外留学・勤務や米国での Ph.D. 取得への意欲が高まった。今後は英語力と専門性を磨き、広い視野を持って柔軟にキャリアを築いていきたい。

日　　程：2025/8/19(火)－8/27(水)

参加学生：10 名

活動場所：アメリカ合衆国（シカゴ、ワシントン D.C.）

備　　考：ワシントン DC 赤門会：https://utalumnidc.wixsite.com/utan-dc



ワシントン D.C.

B27. シドニーとメルボルンでビジネスを学んでみよう

シドニーとメルボルンで、日系企業や現地企業、大学、研究機関などを訪問し、現地で働く方々から、海外での仕事やキャリアについて話を伺った。乳製品加工工場やビール工場では生産の現場を見学し、企業のサステナビリティへの取組にも触れた。また、シドニー大学・メルボルン大学では現地学生と交流し、英語で質問や会話を行った。訪問先では積極的に質問し、学生同士でも協力して活動した。多様な業界やキャリア、異なる価値観に触れることで、海外で働くことを具体的に考えるきっかけとなり、英語力や専門性をさらに高めたいという思いも強くなった。

日　　程：2025/8/20(水)－8/26(火)

参加学生：10 名

活動場所：オーストラリア（シドニー、メルボルン）





企業訪問・シドニーでの集合写真

B28. 『日韓国交正常化 60 周年記念プログラム<メディアと韓国社会>
～日韓における共通課題を実践的に考える～』



YTN の放送施設を見学

世宗市や大学、韓国のテレビ局・新聞社、日本のテレビ局のソウル支局、大使館などを訪問し、韓国社会や日韓関係、メディアの役割について現地で学んだ。世宗市では行政都市や首都一極集中、人口減少などの課題について話を伺い、ソウル大学の学生とは日韓の社会問題や若者の価値観について意見を交わした。メディア関係者との交流では、情報を伝える仕事への思いや、日韓の報道の違いについて考える機会を得た。現地でさまざまな立場の人の話を聞くことで、日韓の共通点と違いへの理解を深めるとともに、物事を一つの見方で捉えず、自ら考えることの大切さを学んだ。

日　　程：2025/9/2(火)－9/6(土)
参加学生：10 名
活動場所：韓国（ソウル市・世宗市・天安市）


屋台で韓国の食文化を楽しむ

B29. スイスの国際機関・研究機関・企業などを訪問する




国際機関や企業を訪問

ジュネーブでは WTO、WHO、ILO、WIPO などの国際機関を訪問し、職員の方々から仕事の内容やキャリアについて話を伺った。チューリヒでは大学・研究機関や製薬会社などを訪問し、研究や企業活動の現場にも触れた。国際機関で働く方々の多様なキャリアや、大学生のときには現在の仕事を想像していなかったという経験談を聞き、将来を一つの道に決めつけず、目の前の学びや関心を大切にすることの重要性を学んだ。また、専門分野の異なる参加者や現地の方々との交流を通じて視野を広げ、海外で働くことや国際的なキャリアについて考えを深める機会となった。

日　　程：2025/9/15(月)－9/26(金)
参加学生：16 名
活動場所：スイス連邦（ジュネーブ、チューリヒ）

B30. フィリピンで国際協力を考える
～新興国におけるビジネス・政策の現場を訪ねる


地下鉄の建設現場を見学


現地の暮らしや社会を知る

フィリピンに進出する日本企業や現地企業、日本大使館、JICA などの公的機関を訪問し、国際協力やビジネスの現場について話を伺った。各訪問先では、事業の内容や現地での取組について説明を受け、質疑応答を通じて理解を深めた。また、地下鉄の建設現場やスラム地区を訪れ、フィリピンの社会や暮らしにも触れた。企業や公的機関がそれぞれの立場から現地社会の発展に関わっていることを知り、国際協力にはさまざまな関わり方があることを学んだ。現地で働く方々や参加学生との交流を通じて視野を広げ、将来の進路について考えを深める機会となった。

日　　程：2026/3/3(火)－3/6(金)
参加学生：9 名
活動場所：フィリピン（マニラ）

B31. スタンフォードとシリコンバレー体験プログラム

スタンフォード大学の研究室やSLAC国立加速器研究所、Googleなどを訪問し、最先端の研究や技術に触れた。また、学生自身が興味のある研究者や医師などにアポイントを取り、研究環境や医療現場、海外でのキャリアについて話を伺った。現地で働く東京大学のOBOGや研究者との交流を通じて、海外で研究・仕事をするために必要な専門性や英語力について考えを深めた。さらに、学生同士で専門分野の知識を共有しながら訪問先について議論し、最終日には成果発表を行った。世界的な研究・技術の現場を実際に訪れることで、海外での留学や研究、キャリアについて、より具体的なイメージを持つことができた。

日　　程：2025/8/3(日)－8/10(日)

参加学生：7名

活動場所：アメリカ合衆国（スタンフォード、シリコンバレー）





研究施設などを訪問

【研究室プログラム】

C1. 複雑なシステムのデザイン演習：カーボンニュートラル国際海運システム



研究室のある新領域環境棟

国際海運のカーボンニュートラル化を題材に、国際海事機関（IMO）の政策を踏まえたマルチエージェントシミュレーションに取り組んだ。参加者同士でシナリオや前提条件を検討し、Python によるプログラムの作成からシミュレーション、資料作成、最終発表までを協働して進めた。活動を通じて、複雑な社会課題をモデル化し、制度設計が各主体の行動や CO_2 排出量に与える影響を分析する面白さを学んだ。また、Python による分析やプレゼンテーションの技術を身につけるとともに、経済学や政策学など、異分野の知見を組み合わせる重要性を実感した。今回の経験を生かし、今後はデータに基づく社会課題の解決や研究に取り組みたい。

日　　程：2025/9/16(火)－9/26(金)

参加学生：3 名

活動場所：柏キャンパスおよびオンライン（ハイブリッド形式）

備　　考：

日本船舶海洋工学会論文集：https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjasnaoe/39/0/39_87/_article/-char/ja/

新領域創成科学研究科 人間環境学専攻 知的システムデザイン分野（稗方和夫研究室）

：https://is.edu.k.u-tokyo.ac.jp/

C2. DO-IT Japan (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology Japan)2025・夏季プログラムへの参加

障害のある参加者（スカラー）のチューターとして 5 日間プログラムに参加し、会場や駅への移動支援、授業内容のノートテイク、アクションプランへの同行、相談対応などを行った。ノートテイクでは、弱視や学習障害（LD）のあるスカラーそれぞれのニーズに応じて記録方法を工夫し、一人ひとりに適した支援の重要性を学んだ。また、セミナーやシンポジウムへの参加、当事者や教員との交流を通じて、目に見える障害と見えにくい障害の多様性について理解を深めた。こうした経験を通じて、ジェンダーと障害の交差性についても考察し、障害のある人やその家族が直面する課題への関心を深めるとともに、今後の研究につながる学びを得た。

日　　程：2025/8/3(日)－8/7(木)

参加学生：1 名

活動場所：先端科学技術研究センター

備　　考：DO-IT Japan：https://doit-japan.org/

C3. 先端的蛍光イメージング技術を用いた脳科学・神経科学研究体験

蛍光イメージングや超解像蛍光顕微鏡を用いて、脳切片の染色・観察、細胞培養、神経細胞の活動や一分子の動態観察、画像解析など、高度な研究実習に取り組んだ。実験では、化学の知識を生かして試薬の調製などに貢献するとともに、他の参加者と協力しながら生物学的な知識や技術を学んだ。実際に実験に取り組むことで、これまで学んできた化学と生物学の知識が結びつき、研究の面白さを実感した。また、研究室の教員や学生との交流を通じて、将来の研究活動を具体的にイメージできるようになった。今後は化学・生物学・工学など幅広い分野の知識を身につけ、今回学んだイメージング技術を将来の研究に生かしたい。

日　　程：2025/8/12(火)－8/25(月)

参加学生：3 名

活動場所：本郷キャンパス 医学部教育研究棟 8 階（細胞分子薬理学）

備　　考：医学系研究科機能生物学専攻細胞分子薬理学分野：https://www.pharmacol.m.u-tokyo.ac.jp/

C4. 脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い

健康科学・運動学習・脳科学に関する研究現場を体験し、実際の研究手法や機器に触れた。高齢者の身体機能測定や参加者とのコミュニケーション、マニピュランダムを用いた運動実験、MATLAB によるデータ解析、近赤外分光法による脳活動の測定など、幅広い実験・研究活動に取り組んだ。実際に研究に参加することで、座学で得た知識が実践につながることを実感するとともに、研究の進め方やデータ解析への理解を深めた。また、教授や研究室の学生との交流を通じて、大学院での研究生活を具体的にイメージできるようになった。今後は健康科学や神経科学への関心を深め、今後の学びや進路選択に生かしていきたい。

日　　程：2025/8 月－2026/2 月

参加学生：7 名

活動場所：本郷キャンパス 教育学部棟

備　　考：教育学研究科身体教育学コース：https://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tkweb/

C5. いちばん近い演習林で樹木調査を体験しよう 2025

田無演習林で、講義や実習を通じて、演習林の役割や森林管理の実際について学んだ。初日は講義や林内の探索を通じて、研究・教育の場としての演習林の役割について理解を深めた。2 日目以降は、演習林で行われている全木調査の一部を体験し、樹木の計測や記録に取り組むことで、森林の状態を把握し、継続的に管理するための調査方法を学んだ。また、芝刈り機や薪割り機の使用、斧による薪割り、高所の枯木の除去など、森林の維持管理に関わる作業も体験した。こうした実習を通じて、森林を適切に維持・管理するには、調査によって森林の状態を把握するとともに、日々の管理作業を積み重ねることが重要だと学んだ。

日　　程：2025/8/27(水)－8/28(木)、2026/2/25(水)－2/26(木)

参加学生：1 名

活動場所：附属田無演習林（田無キャンパス・東京都西東京市）

Ⅲ　体験活動プログラム活動報告会

2026年3月18日（水）、伊藤国際学術研究センター伊藤謝恩ホールにて、体験活動プログラム報告会を開催した。昨年度に引き続き、対面とオンラインを併用し、プログラム参加学生、受入関係者、本学教職員など、国内外から約240名が参加した。

開会後、藤井輝夫総長が挨拶を行った。藤井総長は、本プログラムが2012年度の開始以来14年目を迎え、延べ5,000人以上の学生が参加してきたことに触れ、その意義について述べた。また、学内での学びを社会の現場で実践することが次の学びにつながるとし、「学びと社会を結び直す」取り組みとして本プログラムの重要性を示した。あわせて、学生を受け入れてきた関係者への謝意を述べるとともに、本活動を通じて東京大学全体のコミュニティの広がりへの期待が示された。



司会担当の学生スタッフ



藤井総長の挨拶

続いて、体験活動プログラムの発展に顕著な功績を挙げた団体に対して感謝の意を表し、その功績を称える「特別功労賞」の授与が行われた。今年度は、公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン、桑港赤門会、和歌山県新宮市が受賞した。

【特別功労賞授与の様子】



公益財団法人ドナルド・マクドナルド・
ハウス・チャリティーズ・ジャパン
マネージャー　藤本　弥与生　様



桑港赤門会
会長　佐藤　公一　様



和歌山県
新宮市長　上田　勝之　様

続いて、5つのプログラム（「英国ロンドン、海外で働くとは」、「海の恵みを体感！長崎水産業の未来を考える旅」、「スウェーデン王立工科大学（KTH）での国際交流体験活動―学生交流と企業訪問を通して―」、「盛岡のインクルーシブ・ツーリズム体験及び提言プログラム」、「DO-IT Japan（Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology Japan）2025・夏季プログラム」）に参加した学生が、体験活動を通じて得た学びや、将来に生かしたい経験について報告した。

学生の報告終了後には、協力いただいた関係者から、学生の受入れに関する感想やメッセージが寄せられた。

【発表の様子】



「英国ロンドン、海外で働くとは」



「海の恵みを体感！長崎水産業の未来を考える旅」



「スウェーデン王立工科大学
（KTH）での国際交流体験活動」



「盛岡のインクルーシブ・ツーリズム
体験及び提言プログラム」



「DO-IT Japan 2025・夏季プログラム」

【学生受入れの感想・メッセージ】



英国赤門学友会
副事務局長　牛越　真希子　様



長崎市長　鈴木 史朗　様



工学系研究科　古市　由美子 教授



盛岡市市長公室企画調整課都市戦略室
室長　平山　久枝　様



先端科学技術研究センター
近藤　武夫　教授/事務局　脇山　輝衣菜　様

最後に、津田敦理事・副学長より受入関係者への謝辞が述べられ、報告会は閉会した。今年度の報告会では、8名のプログラム参加学生が司会、受付、写真撮影などの役割を担い、運営に主体的に関わった。学生が運営に参画することで、プログラム関係者への感謝の意を示す機会ともなった。



津田敦理事・副学長の挨拶



発表学生・運営に携わった学生スタッフ

２０２５年度体験活動プログラム報告会

日時:2026 年 3 月 18 日(水)14:00～16:00
場所：伊藤国際学術研究センター
伊藤謝恩ホール(本郷キャンパス)
Online(Zoom)

式　次　第

一．開　　会

一．総長挨拶　　【藤井　輝夫　総長】

一．特別功労賞授与

一．活動報告（5 プログラム）

・英国ロンドン、海外で働くとは
・海の恵みを体感！長崎水産業の未来を考える旅
・スウェーデン王立工科大学(KTH)での国際交流体験活動-学生交流と企業訪問を通して
・盛岡のインクルーシブ・ツーリズム体験及び提言プログラム
・DO-IT Japan (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology Japan) 2025・夏季プログラム

一．理事挨拶　　【津田　敦　理事・副学長】

一．閉　　会

《司会》　総合文化研究科　　修士 1 年
新領域創成科学研究科　修士 2 年

Hands-on Activities 2025
Debriefing Meeting

Date: Wednesday, March 18, 2026
Time: 14:00 - 16:00
Place: The Iron Gate Memorial Hall
(Hongo Campus)and Online(Zoom)

Opening

Message from the President

【FUJII Teruo , President】

UTokyo Award for Outstanding Contributions to the Hands-on Activities 2025

Presentations

- London, England. What it's like to work abroad
- Experience the Bounty of the Sea: A Journey to Explore the Future of Nagasaki’s Fisheries Industry
- International Exchange at KTH Royal Institute of Technology: Student Exchanges and Company Visits
- Morioka Inclusive Tourism Experience and Policy Proposal Program
- DO-IT Japan (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology Japan) 2025 Summer Program

Message from the Vice President

【TSUDA Atsushi, Vice President】

Close

体験活動プログラム

Hands-on Activities

体験活動プログラムとは

東京大学の学部学生及び大学院学生が、今までの生活と異なる文化・価値観に触れることができる体験型教育プログラムです。
本学独自のプログラムとして、2012年度から実施しています。
学びと社会を結び直すこのプログラムは、本学が目指す「共感的理解に基づいた対話を通した信頼の構築」のひとつの実践の形であり、さまざまな体験を通じて多様な人々と出会い、未知なるものを知ろうとすることで、知の探究を進める力を身に付けることをねらいとしています。
フィールドは国内外問わず、内容はボランティアなどの社会貢献活動、国際交流、農林水産業や地域体験、学内研究室体験など、多岐にわたっています。



2022年度より、一部企画の参加申請資格を【学部学生のみ→学部学生・大学院学生】に拡充し、より幅広い学生が参加できるようになりました。


卒業生訪問（アメリカ）


ボランティアなどの社会貢献活動（石川県能登町）


フィールドワーク（北海道）


就労体験（奈良県）


スタディツアー（ケニア）


研究室体験（本郷）

参加学生の感想

・ベトナムを知れば、日本の将来が見えてくる！
ベトナムの持つバイタリティを実際に目にすることができたのは大きな収穫だった。学部・学年バラバラの参加者との交流も非常に刺激的で、参加体験は、社会人になってからも活き続ける、自身の重要な軸の一つであると考える。

・笑う東大×学ぶ吉本SDGｓ人材交換留学「漫才ワークショップ」
観客を自分たちの世界観に引き込むには、観客との対話が必要で、そこが１つ難しいポイントだと感じた。観客との対話も、漫才だけでなく普段の発表やプレゼンテーションの場でぜひ生かしていきたいと感じた。





参加学生が活動を発表する報告会は、参加学生有志が司会やスタッフを務めます。

＜2025年度・プログラム一覧＞

海外プログラム
（全31プログラムより一部抜粋）
・ニューヨークで働くということ
・台湾を知る、台湾近代史へのご招待
・シンガポールでビジネスを学んでみよう
・英国ロンドン、海外で働くとは
・ベトナムを知れば、日本の将来が見えてくる！

国内プログラム（全61プログラムより一部抜粋）
・笑う東大×学ぶ吉本　SDGs人材交換留学
・JICAの国内の現場で国際協力を知る
・東大蔵元会の蔵で酒造りを体験しよう
・ふじのくにの里山 - 植物と昆虫のつながり
・聖地熊野の歴史文化と自然を体験し、地域振興を考える

研究室プログラム
(全5プログラムより一部抜粋)
・いちばん近い演習林で都市林生態系調査を体験しよう
・脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い

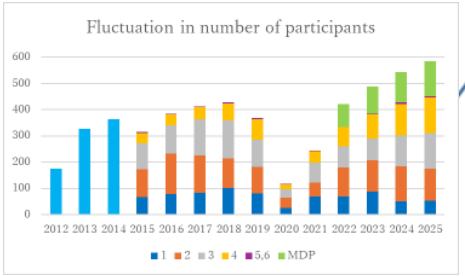
本プログラムは学生受入先の学内外関係者のご協力で成立しています。

東京大学本部社会連携推進課体験活動推進チーム
taikenkatsudou.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp　03-5841-2541/2542
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html

Hands-on Activities

What is “Hands-on Activities”?

The “Hands on Activities” is an experiential education program that allows undergraduate and graduate students of the University of Tokyo experience cultures and values different from those experienced in their lives to date. This program is unique to the University and has been implemented as a non-credit activities since FY2012.
This program, which reconnects learning and society, is one practical form of the "building trust through dialogue based on empathic understanding" that the university aims to achieve. Through a variety of experiences, students will meet diverse people and acquire the ability to advance the quest for knowledge by seeking to know the unknown. The field can be domestic or international, and the content diverse, including voluntary work and other social contribution activities, international exchanges, agriculture, forestry, fishery, local community experiences, and on-campus laboratory experiences.



From the 2022 academic year, some of the projects had their application eligibility changed so as to expand from [Undergraduate students only → undergraduate students and graduate students].
We are pleased to announce that we are now able to accept a wider range of students to participate in our events.

Selection of programs from AY2025

Selection of the 31 Overseas Programs

- Working in New York
- Discover Taiwan: An Introduction to Modern Taiwanese History
- Learn about business in Singapore.
- London, England. What it's like to work abroad
- Understanding Vietnam, Understanding Japan’s Future

Selection of the 5 Lab-based Programs

- Experience Urban Forest Ecosystem Research at Our Nearest Experimental Forest

Selection of the 61 domestic Programs

- Laughing Todai x Learning Yoshimoto - SDGs Human Resources Exchange Program
- Learn about international cooperation at JICA's domestic sites
- Experience Sake Brewing at a UTokyo Alumni Brewery
- Satoyama Landscapes of Shizuoka: Connections Between Plants and Insects
- Experience the History, Culture, and Nature of Sacred Kumano and Explore Regional Revitalization

Hands-on Activities


Visiting UTokyo Alumni (USA)


Volunteer experience (Noto Town)


Field work experience (Hokkaido, Japan)


Work experience(Nara,Japan)


Study Tour (Kenya)


Laboratory program (Hongo Campus)

Participants’ reports

- **If you know Vietnam, you can see the future of Japan!**

It was a great experience that I could actually see the vitality of Vietnam. The exchange with participants from different faculties and grades was also very stimulating, and I believe that this experience will be one of the important pillars of my own life, which will continue to be useful even after I enter the workforce.

- **Laughing Todai x Learning Yoshimoto - SDGs Human Resources Exchange Program**

I felt that dialogue with the audience is necessary to draw them into our worldview, which is one of the most difficult points. I would like to make use of this dialogue with the audience not only in my comic performances, but also in my daily presentations and presentations.





The debriefing sessions where participants give presentations are run by the students themselves

Hands-on Activities is only possible with the support of the people who accept students.

Hands-on Activities Support Team, Student Support Group, UTokyo
taikenkatsudou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2541/2542
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html

メモ



2025年度　体験活動プログラム活動報告

作成　　2026年11月
編集　　東京大学　社会連携部　社会連携推進課　体験活動推進チーム
住所　　〒113-8654　東京都文京区本郷7-3-1
電話番号　03-5841-2541/2542
URL　　https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html